

国立国語研究所学術情報リポジトリ

秋田県男鹿市脇本大倉方言

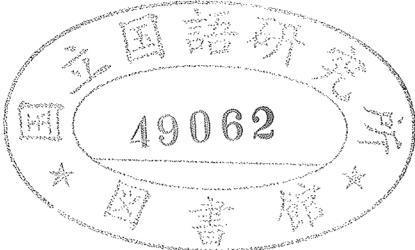
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北条, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003026

方言録音資料シリーズ—6

秋田県男鹿市脇本大倉方言

北条忠雄編

1 9 6 8

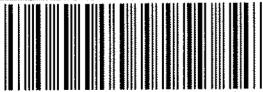


このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者大石初太郎）の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、秋田大学教授 北条忠雄 が担当した。

国立国語研究所



1001877792

もくじ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本文	
(1) <なまはげ>の話	5
(2) 鳥コの話	9
(3) 訪問の対話	12
(4) <昔は苦労した>という話コ	13
(5) <謎> よもやま話	21
(6) 弁慶の話	27
(7) 男鹿地震の話(その1)	31
(8) 男鹿地震の話(その2)	37
(9) お昼の対話	41
(10) おじいさんとおばあさんの喉コ	43
(11) 餅のかぞえ歌	44
(12) 若い時の話ちよびり 一夫婦仲よくかせいだこと一	45
(13) やづのめ 一一つの花に実が八つなる梅の話コ 一	46
(14) 繁次郎という男の話 四つ	
① 鯉は川に	48
② 紅餅	49
③ 山さ行ってマギきり	51
④ 若勢ぶり	52
(15) 昔話	
① 松かさ三升で炊事 一嫁の資格試験 一	54
② <やぐわん>と<めくされ>それに<じらみたがり>の話	57
③ 狐とむじなとを化かした話	60
④ 無実の罪に泣く如来さま	63
⑤ ダンゴがドンになった話コ 一コブのおかげでやっとがダンゴに 一	66
⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ	68
⑦ 餅粉の整鼻術 一昔の整形外科 一	70
⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ	72

収録地点とその方言について

1. 地点名： 秋田県男鹿市脇本大倉

2 収録地点の概要

船川線脇本駅から下車左折して4分ほどにて更に左折、船川線の踏切を越えて道路を北上すれば左手に見える（田園をこえて）のが大倉である。さらに15分ほど北上、左折してこの部落に入る。北西に寒風山を望み頂上の展望台とさだかにみとめ得る、寒風山麓の小農村である。かつて寒風山は樹木も鬱蒼と繁茂していた由で村人は田により山によりて働くのが日常の仕事であった。現在は農業がもっぱらである。（山に働きに行くのもオリルという）

3. 収録した方言の特色

録音したものの中で特に留意したい現象は、

1. 推量に由利方言に見えるデロが見えることである。

ドゴサ・ツレテ イゲバ イインデロ 【10】

但し由利の如くに広くあらわれているということはできず又<ペニ>も見えている。

2. 由利や平鹿雄勝を除いて意志法は、秋田方言では、終止形を使用するのが普通であるのにここではヤロガ（じょうか）コロガ（きようか）などの用法が見えている。イマダケア シノダケア タエヘンダデア 【4】イマダケア=イマダバ（ケア=バ）シノダケアは秋田方言では死ヌゴタバが普通である。シノダケアは<死のうだば>である。北越後でいうシノンダラに当る。

3. ガエ〔qae〕に、全く疑問の意味がない単なる<詠歎>としか考えられないものが見えている。

4. 秋田全般にヤルとケルとをすべてケルで表現する。ところが南秋田郡ではダスは相手にケルことでありケルは自分へ（くれる）ケルことである。普通のダスはどういうかとなるとこれはトダスという。（男鹿地震のところに見える）

4. 地点選定の理由

特別の意図はなかったわけであるが、ただ秋田市周辺或はそれに近い範囲内が案外おろそかにされ又調査者自身としてもその傾向があつたため、検討しておく必要があると考えたこと、同時にこの脇本あたりは男鹿半島と南秋田郡との境目にあたり、何か特異な現象もと考えられたこともあった。結果は果然注目すべく、向後さらなる調査と討究とを要することを確認した。（上記に一部摘録）

表記について

[指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号]

特になし

表記は大体<1966-10-20>の<方言の表記について>に見られる表記法に従った。それと異なる点は大体次の通りである。

- (1) <イ>と<エ>とは一応同じ phoneme と判断され、かつ表記の便も考慮して〔e〕とした。〔e〕は〔i〕〔u〕〔e〕の中間あたりに位する母韻と考えての処置である。
- (2) <シ>と<ス> <チ>と<ス>に限り中舌母韻記号を使用した。例えば〔s+〕〔s#〕、〔c+〕〔c#〕 但し両者とも一つに統一せず<シ>に近く聞えるものを〔s+〕<ス>に近く聞えるものを〔s#〕とした。他のイ列 ウ列には中舌母韻の記号は用いていない。
- (3) カ行タ行の語中有声化は一般に補助記号〔v〕〔t〕を使用しなかった。一々濁音に表記することとした。というのは〔v〕で終始すると、濁音でいわれたのに〔v〕を入れ忘れたのではないかとも心配されるからである。但し少数〔v〕を用いた。
- (4) [k¹] [k²] [k³] 一応この三者を区別したが、2と3と境目あたりはどちらにしたとしても差支えない。
- (5) 共通語訳はその意味を、解説を俟たずに把握しやすくするために、意識して当用漢字以外をも使用してある。

秋田方言の録音

1967.2.26

秋田県男鹿市脇本大倉

昭和42年2月26日 秋田県男鹿市脇本大倉で録音したものです。

脇本はもと南秋田郡に属し、秋田から船川にいたる船川線の船川へあと二つ目というところにこの脇本の駅があります。秋田市から脇本駅まで鉄道の距離で、31.9キロ(メートル)あり、駅から大倉(被調査者宅)まで徒歩約25分です。

取材録音の場所は、脇本大倉の吉田運蔵さんのお宅で、登場するかたがたは、おじいさん(夫)吉田運蔵さん84才とそのおばあさん吉田ナツさん77才、それに83才の、吉田さん宅から近所へ嫁入りした安藤リワさんです。

語り手の中心となっているのは吉田ナツさんで聞き手は(秋田)県立男鹿高等学校の菊地教諭とわたくし北条です。

秋田市も、この脇本のあたりも(珍しく)もう雪はすっかり消えてよくはれたうららかな日和でした。

(1) 《なまはげ》の話

録音日時 1967年2月26日
(同9月3日臨地検討)
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵 氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業		脇本	だけ
R	安藤リワ	〃	〃17年生	〃	〃		

解説： 男鹿半島の、今では広く宣伝されている、<なまはげ>〔namahāgē〕の行事を話し合っている。昔の<なまはげ>を回想して今のそれと比較して、昔のは〔ag-wdæ〕で〔okkanegatta〕が、今のはそうでなく、それに餅や酒などよりもむしろ錢〔dʒen-i〕を欲しがっているなど話して、御代も変れば<なまはげ>も變るもんだとやや嘆嘆している風情。

N namahāgē-daba hontone u-u-u-qte ano adari a(r)a-
ナマハゲは、 ほんとに ウウウって あのあたり
(おそろしくて)
geba ora ema-demo da qkirado omo u-de na, sono
歩くと 今でも ダッキラと 思うよな， すぐその
(ドキッ)
adarisa kitaga-do omote.
あたりへ 来たかと 思って。

R ore-no masako-gada da qte ema dem oqkanæ
うちの 正子など だって、 今でも ごわい
恐
o qkanæ qte ju domo, un kono ojan aqte-gara
恐いと いうけれど うん 子供の 親になってから
sje-ba namahāgē o qkanæ qte kagure ru hito
それなら ナマハゲ こわいといって 隠れる 人
dogo-ni eru qte.
どこに いるって。

N s o N - d e n æ .
そうでない。

R u N ↗
うん↗(ケゲンな面持)↗上昇調
怪訝

N s o N d e n æ . o r e - n o k o d o r a g a d a - d a q t e , a n o n a N -
そうでない。 オレの家の 子供たちだって, あの なん
(次のコトバを何と言い
d a m o n o , k o n d a k o ñ o d o k u s i r a k a g u r e n æ - d e e r e -
だもの, こんどは こんど こそ 隠れないで いろ
だしたらよいからちょっとよどむときのコトバ)
j o q t e j u e b a k o n d a - h a k a g u r e n æ d æ - n a N k a e q t e ,
よって いえば こんどは 隠れないよなんか 言って,
N d a t a q t e k e · b a j a q p a r i o q k a n e g a r u - m o n o - n a .
それでも, (ナマグが) やっぱり 怪がるものなあ。
くれば

R 笑

N o r e - n o m a s a j u g i - d a q t e , s j e - b a ã n d a n o k ñ o n d a -
うちの 正之だって, そんなら ああだの こうだ
n o e w a r e r u j o r i o r a h a h a j æ g u k a g u r e r u - d æ q t e ,
の 言われるより オラア 早く 隠れるよと言って,
(不分明), k a g u r e d a m o n d a . s i t a b a , k o n d o j a q -
..... 隠れた もんだ。 そしたら, こんど やっ
p a r i m a s a j u g i e d a g a , m a s a j u g i e d a g a , b e N k j o
ぱり ナマグ「正之」 いるか, 正之 いるか, 勉強
s u r u g a , s a n e g a , (笑) k o n d a s o g o r a - a d a r i
するか しないか」 (といわれると こんどは そこらあたり
こわがって)
h a s j e d e a r a q t e n ã n m o k ñ m o n a r a n e - m o n o n a j a .
走って あるいは どうも ならないものねえ。

R o r e - n o o d o - d a q t e m o , c i q c j æ d o g i , a n o a e d a q -
うちの 親仁だって, 小さい 時, あの あれだっ
(Rの息子)
t a d æ , a n o z i N z o - n i k a g a q t e n e d e a q t e - m o n o .
だけ, あの 腎臓(病)に かかって 寝て おったもの。

N N · N ·
んん んん

R s i t a b a k o n d o n e d e d e , n a m a h a g e k i t a m a m a - d j a
したら こんど 寝ていて ナマハゲ 着たまでは

u d a d e a N t e g a n e
むさぐるしいので
～アンテガネは理由表現

N h o n t o n e s o · j u · m o n d e a q t a .
ほんとに そう いう もんで あった。

R a · j a . s o s i t e a g u d æ n æ N t e g a n e g o m e N s i t e
うん、 そうだ。 そして、 おとなしく するから 御免して

k e r e q t e .
くれといって。

N s j e b a k o n d o g o m e N s i t e k e r e q t e w a g i n o m o n o -
すると、 こんど 御免 して くださいと言って、 僕の 人

g a d a e q s j o k e N m e f u q p a t e a r a q t e < R s a g e
たちが、 一所懸命 引っ張って 歩いて < 酒

n o m a s j e d e > s a g e n o m a s j e d e n a < R m o c i d a s i -
飲ませて > 酒を 飲ませてねえ < 餅を 出し

t e >
て >

N n a m a h a g e d o g o - g a r a k i t a b a j a q t e b a o e d a r a - n o
ナマハゲよ、 どこから 来たかというと 大平の

s a n k i c i - d a . k a d a - n o s t u p a w a d a q t e j a q t o g a
三吉だ、 渦の 氷を 渡って やっとか

k i t a q t e n a .
来たといってね。

R N d a N t e
そうだ。

N o e d a r a - n o s a n k i c i d a n o q t e k i g a n e (a N d a) .
大平の 三吉だなどいって きかないもんだ。

R (何か低声でつぶやく)

N e m a - n o n a m a h a g e - d a b a a g u d æ - n e .
今の ナマハゲは おとなしい。

R u . N
うん

N naNmo oqkanæg unæ, sosite sjeba futogær i - jori
少しも 恐ろしくない, そして すると 一遍しか
konæ monda mono.
来ない もんだ もの。

R Ndana.
そうだ。

N modo migumi kitajac h sjeba,
以前は 三組 来たのに, すると,

R migumi futogær i - jori konæante kifum o fut a -
三組 一遍しか 来ないから 寄付も 一遍
gær i - buri oriæ - no uc dasitejara.
ぶん オレの うち は 寄付したよ。

N a e mada mada çideqko dasita, moçit daba,
うん まだ まだ 祝袋 出した。 餅は
dasite jaNne.
出して やらない。

R moçit eraneqte ju mono, sjeba, kanebari
餅は いらないと いう もの, すると, 金ばかり
hosigagte naNto
ほしがって 何と

N ema mi jo kawaqte koeba namahäde - made kawag -
今, 時世が 変って くると ナマハゲまで 変つ
te,
て,

R Ndaja.
そうだ。

N kondo, futagær i migær i æarugu jac h kondo fu -
こんど, 二遍 三遍と 歩くのを, こんど, 一
togær i - ni siru monda mono.
遍に する もんだもの。

【2】鳥コの話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵 氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本	だけ	
R	安藤リワ	々	々 17年生	々	々	々	
S	吉田家主婦	々		々	々	々	
H	北条忠雄		(聞き手 編者)				

解説： <鳥>についての質問対話。いわば共通語的のHと方言N・Rとの対話ということになるが、方言側がN・Rと、それにSも加わっているので、それにHが方言をかなり理解するとも(N R Sが)考えているので、N・Rの<話しことば>は方言とまず考えても支障はない。内容はダオ(朱鷺ートキー)から、フクロ・ミミヅクに及んでいる。フクロウをこのあたりで<ログ>ということが見えている。

H so:suru-to, dao no kurun-o-wa, nawasiro-e ori-
そうすると ダオ の くるのは 苗代へ おり
(朱鷺の方言)
ru koro kuru wake-desjo:ka.
る 頃 くる わけでしょうか。

N nantoga-nandaga ora wagara-ne. wagaran-e-domo
どんなものやら オラ わからない。 分らないけれど(とにかく)

harusagi nanne-ba konaeantene. nawasiro-daba ha-
春先に ならなければ 来ないのではない? 苗代は 春
rusagi-ni nareba kagaru-mono. ora emi-daba siranænta-ja.
先に なれば 仕事にとりかまるもの。 オラア 意味は 知らないんだや。
(トキそのものの本体ほどの意味)

H sa: dao-wa mita kodo nae wake-desu-ne.
さあ、 ダオは みた こと ない わけですね。

N N da
R そうだ。

N g a N - no e N da (m o) da - ba ja q pa modo - daba kitata-
雁の ようなものは やっぱり 以前は 来たけ
ta q te, kon ogoro - daba g a N - mo ko - næg u næ?
れど このごろは 雁も 来ないではない?

R N da N da.
そうだ, そうだ。

H fuguro - nado or imas u ka.
フクロなど ありますか。

R h a e fuguro - daba emas u.
はい, フクロは います。

N N da.
そうだ。 (Rの<はい, フクロはいます>に相槌を打った)

H m i m i d z u g u - w a?
ミミズクは?

N m i m i d z u g u - q t e j a d z t - s j æ fuguro - no ko q t e
ミミズクと いうのは フクロウの ことでは
n e g æ.
ないかね。

S c i g a u.
違う (小さい声)。
低い

N so · g a, c i g a u - g a e.
そうか, ちがうかね。

S fuguro - no do - sa mimi cu der u. (このあたりHへの応答でなく
(ミミズクは)フクロの 所へ 耳が 付いている。 お互いの私語的なものため低
声ではっきり聞き取りがたいものもあるが大体こんなところであろう。)

N h o n t o n e - g a.
そうか。

R da q t e, fugurogu - daba nego q ko - no c e r a q ko midæ N -
でも フグログ(方言)は 猫の 顔 みたい

d a j a d z u - d e - n ε .

なものでない?

(急声)

N m i m i q k o c u d e - g a .
耳 付いてか。

R u N .
うん(そうだ)

N d a q t e s o r e - s j e m i m i d z u g u - d a k o (q) t e , s i t a r a -
だって それ みみづくだ ことよ, したらよ
ʃæ. ora fugurogu 'ho : se N' q t e n a g u a n d a b a k i : -
オラ(俺) フグログの ホーセンといって 鳴くのなら 聞
(<耳がついていたら>の気持)。

d e r u t a q t e - n a .
いている けれどなあ。

R n e g o q k o - d o h i t o c u - d a - g o q t a .
猫と (まるで)おなじだ。

N 'h o - s e N' q t e j u e b a s o r a e g u n a r u s i , 'h o - h o - ' q t e
ホーセンって いえば 天気が よく なるし, ホーーって
j u e b a a m e f u r u q t e n a j a .
いえば 雨が 降るって いうな。

R u N .
うん(そうだ)。

N s o · j u · d e n æ . 'n o r i c u k e h o - h o - ' q t e - b a a m e f u r u - q -
そういうでない? ノリツケ。 ホーーっていえば 雨が 降るっ
t e j u - s i , 'n o r i c u k e h o - s j e ' q t e b a s o r a e g u
て いうし, ノリツケ ホーシェっていえば 天気が よく
n a r u q t e (笑声) 。
なるって……。

【3】訪問の対話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本	だけ	
R	安藤リワ	々	々 17年生	々	々	々	

解説： 晩、NがRを訪問。話ははすまず簡単な内容で終ってしまっている。

N b-a-b-a e-d-a-e s-w-k-a .
婆！ いたかね。

R h-a-e .
はい(いるよ)

N s-i-ma-q-ta-ga-h-a .
(ごはん)終ったかね。

R a .
はい。

N o-e-d-a-q-k-e m-a-d-a (e-N) w-a-g-k-o-m-o a-r-a-w-a-n-e d-o-m-o o-m-a-e-
オレなら まだ お椀も 洗わないけれど お前
s-a-a-s-w-n-i k-i-t-a-e .
のところへ遊びに 来たよ。

R j-o-g-u k-i-t-a-n-e s-i m-a-d-z-u a-g-a-q-t-e k-u-n-a-n-s-j-e (q-t-e j-u-q-
よく 来たね まず 上って ください(ってこんな風に言
t-e g-a-e) .
います。

N u-n o-m-a-e-n-o a-g-a-c-j-a-n m-a-d-a o-q-k-i-g-u n-a-q-t-a-j-o .
うん お前の 赤ちゃん また 大きく なったね。

R kono - kræ naq ta(j)e, na · Nto agudæ - de naNmo kan-
このくらいに なったよ。 なんと わんはくで どうも
mo narane.
ならない。

N nda. haq te arugu kode - ha.
そうだ。 這って 歩く こったろうね。

R n · aNde arug u - ha.
ン (這わないで) 歩いて(立って)歩くよ。

N omæ - no ka · saNmo ja ma - sa eq t a - gæ.
お前の 母さんも 山へ 行ったかね。

R egane .
行かない。

N ~uN e · na .
フウン いいなあ。

【4】 <昔は苦労した> という話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田 運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	々	々 17年生	々	々

解説：二人の老婆がしみじみと語り合っている。昔と今とをくらべ昔の農業の容易でなかったことが、今の状態とひきくらべられて、具体的に語られていて、それに昔のシヅケのきびしさと今の安易さあるいは放縱さというかそういうものにも言い及んでいて、まことに胸を打つものがある。さらに特筆したいのは、この苦労して來た老婆が働けなくなった今いかにも生きていることがお笑止だという気持で生きていることである。この対話は老婆二人が低い声で話しあいはじめ

たのを——老婆たちはこんなのは録音されていないと考えていたらしい——録音したもので眞実の胸にあるものを吐露した対話である。

[いいなおして]

R na: n to j q p a r i w a g æ m o n o d a b a w a g æ k u t e s j e b a
なんと やはり (若いものは) 若くて(若い時) ずいぶん

b a n b o k u r o s i t a m o a d e n e o r e .
ずいぶん 苦労したが その価がないよ、オレは。

N n a n t o s i t e , k o n o b a b a n a n t e c i t o b a r i k u r o s i t a
何として。この婆など 少しばかり 苦労した

h i t o - d e n e . s o (s) i t e s o r a h a s i e q p o n t a j o q t a -
人でない! そして それ 箸 一本 (他)にたよっ

d e . w a g e n æ g u k a m à d o m o q t e e m a n a r e b a n a n i
たというわけでもなく 家を 持って 今に なれば 何一つ

n e - d e k o d o n æ g u a . j a q t e k u r a s i t e r u - m o n o .
ないということもなく ああ やって (立派に)暮しているもの。

k o n o h i t o - n o d a e - n i k a m a d o k o s i r a d a n d e u n t e
この人の代に 家(財産)をこしらえたんで ほんとに

n a n n i s i t a h i t o d a .
難儀 した 人だ。

R o r a e m a - d a b a s o n o k a n z j o n e . n a n m o s a n æ - t e -
オラ 今なら そんな つもり ない。 何も しなくて
(勘定)
m o a s w e n d e r a r u n d a .
も 遊んでいられるもの。

N n d a e n a . a s u N d e .
そうだよなぁ、遊んで。

R n -
ん—。

N k u d a g e d a e .
食うだけだね。

R s o r e - d e m o o r e e - n o k i j o s i - d a k e , b a b a m o - n i -
それでも、 うちの 清なら (は) 婆 もう 二

n e N s i n a n e d e k e r e j a t e j u m o N d a .
年は 死なないで 吳れやと 言うもんだ。

N N .
んー。

R e ma - d a k j e s i n o d a k j e t a e h e N d æ q t e j u · m o N d e
今(は) 死のうなら 大変だって いうもんて

N m a y g o - g a .
孫か?

R N ' k o h o ' r æ . N k a d e d e m o r a u q t e g a .
んー, 子よ, ほれ。 かでで (世話して) もらうというのか。

R N
ん。

R d a k j æ , a j a (a n n a m o N h i c u j o d e) e g i d e r a j æ q t e
したら, まあ (なにが必要で) 生きてるのかって.....

N e g i d e r a - j a d z e w a r i g o d o n e w a j a . k w a s j e r u
生きているの わるいこと ないよ。 食わせ(してくれる)る

h i t o s j e b a e g i d e r e q t e j u k o q t a b a n a N b o - d e m o
人 (それなら) 生きていろと いうのなら, オラ(俺)いくらでも

e g i r a .
生きるよ。

R n a n i e m a d a k e s j e - b a m a N m a s j a q t o n i z j N
なぁに, 今なら (すると) 飯 サーと 二杯も
(少い形容)

a r e - b a e q i d e r a r u m o n o .
あれば 生きていられる もの。

R n a n i a N m a r i n a g æ g u e g i d e r u j a d z e - m o
..... なぁに あんまり 長く 生きてる のも

e g u n e d e a .
よくないよ。

N u N . ↗
うん- ↗

R a N m a r i n a g æ g u e g i d e r w - m o e g u n e m o N d a .
あんまり 長く 生きてるのも よくないもんだ(いいもんでない)よ。

M daqte s̄igadanesna.
だって 仕方ないよ。

Raja sinudaqte sinarenesinaja.
ああ、死ぬといったって死なれないしなあ。

N wagae mono-ne cito-ando sasjeretataqte egir-
若い 者に 一安堵させろといっても生き
deru mono nanto site, orananka futaridzare-
ている ものを 何と するって、オラなんか二人連れて
de jaganaqteru-domo.
厄介になってるんだが。

R esogasti dogi-daba soju-taqte kondohorjæ
急がしい 時なら そういっても こんど それ
- s̄igodo negu naqte nareba kondojappari
仕事が なく (なって) なれば こんど やっぱり
konda ssjosi-de.....
こんどは 笑止(恥ずかしく)で.....

M ssjosi-to omoeba ssjosi-si, oranante do-se
笑止だと 思えば 笑止だし オラなんて どうせ
nani koremademo asandemo edabesi, ku-daa-
なぁに これまでも 遊んでいたわけでもないし 食うだ
ge-no kodo sitanda-mono, nani. emamijo-daba
けの こと したんだもの なぁに。 今時では
ta-mo kawene-si jama-mo kawene-taqte, ku-
田も 買えないし 山も 買えなくても 食
ta-kiri-ni stru-tatake, modo sje-bananto
うだけで 何も出来なくても それなら もとは なんと
nanda monde aqta te heba-naja.
どうした もので あったってえ。

R Ndaqte.
そうだ。

N ema-daba namboradarada-tataqte ku-adene
今は どんなに 働いたところ 食う アテには

s a r e n e , n a N d a r a h i t o d a q t e , m a r u q k i r i , k i k a e - n e .
されない, どんな 人だって, 何もかもすっかり 機械に
b a r i j a q t e - n a .
ばかり やってねえ。

R N .
ん

N a j a s i t e o m æ g a d a N d a e n e n e n e d i e n e k o g u n e .
あのようにして お前がた あのように 痴ないで 稲 こきに
a q t a r i , s o e k o s o j o r u g a r a j o r u - m a d e , h a d a r a g u -
歩いたり, それこそ 夜から 夜まで 働きに
n e a q t e . e m a . n o m o n o - d a b a d a r e s j e b a .
歩いた。 今 の 者なら 誰が そんなことするものか。

R a e j a .
そうだ。

N h i r u m a - m a d e e n e a g e d e k i t e , h i r u m a - k a r a
昼間まで 稲 上げて 来て, 昼間から
k o m e - n e s i t e s i m a q t e c j a n t o s i t e r u - d e n a j a .
米に して しまって, ちゃあんと しているよなあ。

R h o N t a u N
ほんとだ, うん。

N e n e k a r a a g e d a q t e b a k o g u n i e b æ .
稻 から 上げたといえば もうこくに いいだろう。

R e m a - d a b a e
今は いい(なあ)

N N ^ m o d o b a g a - m i d æ d e a q t a d e n a .
ん。 むかしは まるでバガみたいで あったなあ。

R N d a e .
そうだねえ。

N m a m a N d e e n j o - n e c u N d e s j o g w a d z e k u r u - m a d e
すっかり 稲鳥に 積んで, 正月が 来るまで
k a g a t e e n e k a n a g o g i m o q t e k o e d e .
かかって 稲を カナコギで こいで。

R h o n t o n e a n o z j o g e N m o q t e o s t a d z u - n e a n o f u N -
ほんとに あの ジョゲン で 押す のに ヒビ
(皮軍)

b i n j a m a N n a q t e - n a .

N N da . s i t e k o j a s i t e o r a - n a n t e o g o s j e n e g a q t a d æ n a .
そうだ。そして、こういうようにしてオレなんて(指を)おこせなかつたなあ。
(指を屈めておこす所作をする)

R j a s u m e - b a k o n o t e - n o n a g a b u r u b u r u b u r u -
休むと この 手の 中 ブル ブル ブル ブル
q t e a r e t e k o · j a s i t e h i t o g æ r i n e o g o s a e n e
と、あれ このようにして 一遍では おこされなかつた
m o n d e a q t a d e n a , a n o z j o g e N
もんだったなあ、あの ジョゲン

N h o n t a . k o m e q k o - n o z j u g o h j o - m o f u g u - d a g e
ほんとだ。米の 十五俵も ひくだけ

e n e t a m e r e - b a n i w a - s a j a m a - N n a r u d a g e t a m a -
稻をためると 庭に 山に なるくらい たま
q t a - m o n d a - d æ n a j a , k a n a g o g i - n e k o n d a d o g i -
ったもんだよなあ、カナコギに こいだ時だ と。

d a b a n a . s o r e k o n d o e d z i n d s i k a g a q t e t a d a - d e .
それを こんど 一日 かかって たたいで…。

n a n g i s i t a - d o o m o e b a e m a n n a r e - b a b a g a - m i -
難儀 したと 思えば 今に なると バカみ

d æ d a .
たいだ。

R d a q t e s o n o t e · r i - d a q t a (m o n o) .
だって、全くその通りだったもの。

N N
ん。

R e m a - n a n t e n a d z u - m o f u r i - m o k u d z u s i t a h a n a -
今は 夏も 冬も 鞍下 放
s a n e d e t a j a m a - s a h a q t e r a .
さないで 田や山へ 入ってるよ。

N N. すると、今に苗代へ入る。

R sje - ba emane nawasiro - sa orire - ba ast' horo -
すると、今に 苗代へ おりれば、足を 入
qte - mo < N hon to da > hadass - ni naq te haeta j e .
っても ほんとだ はだしに なって 入ったよ。

N so(r)e - ko so, nawasiro - sa haeru joni naqtara,
それこそ 苗代へ 入る ように なったら、

jome mug o nigerete, so eqtata te emano
嫁 箕 逃げろって そう 言ったにしても、今の

mono - da - kjae nanbo nawasiro - sa haetara qte
者なら どんなに 苗代へ 入ったところで、

fukae ba fukae joni togonagaderada qte hagi < R
深ければ 深い ように トゴナガとやらを はき
(特長-特別に長いゴム長靴)

Nda > ase - ba ase joni suedengucu - dado nanda -
そうだ / 濡れば 浅い ように 水田靴とか 何とか

do so ju jaq u hade, e - sa agate kita - do omoeba
そう いう ものを はいて、家へ 上って 来たかと 思うと、

ast' - mo arawane de, ta - sa eqte kitte - mo sono
足も 洗わないで 田へ 行って 来ても その

manmane aga - te hizjako oqte manma kujqtera.
ままに 上って 膝を 折って 飯を 食ってるもの。

< R, aja Nda > ora sjeba ta - sa eqte keba e - no -
うん、 そうだ / オラ、 すると、 田へ 行って くると 家の

mesa minna handaga ni naq te kiru monomade
前に みんな 裸 に なって 着る ものまで

minna oede kite soete becoda aq cukede
みんな おいて 来て そして 別なのを つけて、

soete mada oride eguteba mada sore 不分明
そして また おりて いくといえば また それを (離て行った
もんだ」くらいのところ)

Rmugasi - no moNda kena ra hoNt one ema - no.
昔の ものなら ほんとに 今

hitoni jarasjereba.....
人に やらせれば

N daqte, emagara mireba oradaci jogu jamæ
だって、 今から みると オラ達は よく 病気を

s anæde eg i de da do omou na.
しないで 生きていたと 思うなあ。

R Nd aN tega.
ほんとだ。

N so e dem o kono ora sje ba naNboga zjo bune.
それでも、 この オラ すると、 どれほど 丈夫に

d egi da moNaNdaga omædano torada naNte hog a-
出来た ものなのだが、 お前だの オラなど よそ

gar a mimæ hitoç# moraqta kodo nædene.
がら 見舞 一つ もらった こと ないではないか。

R. hoNtagan ena.
いかにもそうだ。

N naNto,c jo siNki c baba nedera qte eq ta
なんと、 今日 信吉の家の婆 寝ているって いった
(Rの家)

kodo mo næ s-i, mogu - no baba - dano dziqcja - dano
ことも ないし、 モグの 婆だの 爺だのが
(Nの家)

nedera qte
寝ているって

(R) so sa miNçuk o koboreda - dæ (N) u N ↗
そこへ 水が こぼれたよ うん ↗

(R) miNçuk o koboreda (N) Nd aN (R) u N
水こ こぼれた そうか うん

so e qta kodo kid a kodo nædene.
そういう ことは 聞いた ことが ないではないか。

S kida kodo næde nε - do.
<聞いた こと ないでは ないか>とよ。

R N d a .
そうだ(そのとおりだ)

【5】<謎> よもやま話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	々	々 17年生	々	々
S	吉田家主婦	々	40才くらい	々	
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)		
H	北条忠雄		(聞き手 編者)		

解説： <口のない樽>(卵) <削れば削るほど大きくなる>(シェギー小川) <クロペジンジョの力はり>(自在鉤) <ハリのヨエにパンバイドウンデル>(蜘蛛) 後二者が発音やアクセントも関係して話がもつれる。ウンデルなら<予持つ>(生んでる)ことだ。これはウンデルだと80才の老婆はいう。ウムは<續む>でこれがまたもつれて愉快である。

N s o r e - g a r a s o n o k u c i n o n e t a r u - w a t a m a g o .
それから その 口の ない 樽は 卵。

R 笑

N k e z u r e - b a k e z u r e b a f u t e g u n a r u .
削れば 削るほど 太く なる。

R 笑

N b a · b a t o g e d j æ .
婆 解けよ。

R (笑)

S ana
穴

N uN ↗
うん ↗

N s j e g i
せき。

S ana - mo
穴も。

N kēzureba futegu narunega.
削れば 太く なるではないか(なるだろう)

R s j e g i s j e g i
関 関

N kawa - no koqta.
(小)川の ことだ。

K tanbo - no - ne.
田圃のね。

H ha · kēzureba kēzuru hodo futogu naru.
はあ、 削れば 削る ほど 太く なる。

K e · kēzureba kēzuru hodo futogu naru.
えー。削れば 削る ほど 太く なる。

N sorede māda jaq temo eswka.
それで、 まだ しても いいですか。

H ekura - demo. (N · R · 笑)
いくらでも。

N ogasiku naqte kurut - dæ, ora.
おかしく なって くるよ, オラア(俺)。



N kurope - z i N z jo - no - c i karahari.
クロペジンジヨの力はり。

R kāNθi.
鉤(自在鉤)。

N nda, sono kāNθi - da.
そうだ、 その 鉤だ。

H kurope - z i N z ja - desuka.
クロペジンジヤですか。

N kurope-zin zjo, kurope-zin zjo-no cikarahari qte
クロペジンジョ、クロペジンジョの 力はりっていうのは

sore furoe monda.
それ 古い もんだ。

R mugashi-no monda. are are ano kāngi-no koqta.
むかしの もんだ。あれ あれ あの 鉤の ことだ。

K kurope qte kuroi desjo. zin zjotena zin zja-to
クロッペとは <黒い>でしょう。ジンジョというのは <神社>と
onazi imi, zin zjogtena nno koto-desuka.
同じ 意味? ジンジョっていのは 何のことですか。

N zin zjogteba ora-daba sodone tada qteru are
ジンジョといえば オラなら 外に 立つてある。 あれ
machi-no zin zjo-sama.
町の 地蔵様。

K zizo-samano koto-dana, kurope zin zjo-no cikarakā-
地蔵様の ことだな, クロペジンジョの 力鉤
y i.

N cikarahari
力はり。(Kのチカラカギを訂正したもの)

K cikarahari, cikarahari sore ga kāngi-no koto.
力はり, 力はり, それが 鉤の こと。

H kurope zin zjo-no,
クロペジンジョの,

N cikarahari
力はり

H cikarahari qte do' ju' koto-desjo.
力はりっていうのは どう いう ことでしょう。

N cikara, cikara cujo e-de koq tanda.
力 力が強い という ことなんだ。

K kāngi-wa nandemo ayeru-gara cikara cujo e qte koto.
鉤は なんでも 上げるから 力が強い ということ。

N a-e na n de mo .
そう。なんでも(上げるから)

K kur o kute ne .
黒くてね。

N n andara n ~ n be k age demo ,
どんな 鍋を 懸けても,

K hah a N , s ono k ~ a y i - da - kara - ne , c ujo i - to .
ははあん, その 鉤だからねえ, 強いと。

N c i q c j ~ ja c ~ k age demo , o q ki ja c ~ k age demo ,
小さい のを かけても, 大きい のを かけても,

H z i zo - k a y i - desu ne
ジゾウカギですね。

N kuro pe z i n z jo - no c i k a r a h a ri .
クロペ ジンジョの 力はり。

H c i k a r a no cujo e no - o c i k a r a h a ri - to ju N desu ka
力 の 強いのを 力はりと いうんですか。

N N · d a
そうだ。

K kota e - ga z i z ~ a - k a y i - das ~ na
答が <自在鉤>ですな。

N har i - no j o e - ni b a n b a e do u n d e r u .
ハリの ヨエに 婆 糸 ウンで(い)る。

K har i - no j o e - ni b a n b a ,
ハリの ヨエに 婆,

N b a n b a e do u n d e r u .
婆 糸 ウンでる。

H e do har i - no j o e - ni ↗
糸 ハリの ヨエに ↗

N a N .
うん。

R k u N b o N t a - b ~
クモ(蜘蛛)だろう。

N N ↗
ん ↗

S kūbo-nō su-dado
クモの 巣だと。

R kūbo-nō su
クモの 巣。

H baNba edo
婆 糸

N a-e mugasi-daba edo nunusita monda monona,
うーん むかしは 糸を 繕み續みした ものだ ものなあ,
聞きとれない
-ni. sosite hari-no joe-ni baNba edo underu,
…に。 そうして ハリの ヨエに 婆 糸 繰んでる,
nāzo kagedaanda.
謎をかけたのだ。

H hari-no jome-ni,
ハリの ヨメに,

N joe-ni
ヨエに,

K joeqte ue-no koto, ue-no koto joeqte hacuon
ヨエって <上>のこと, <上>のこと ヨエって 発音
suru,
する,

H naruhodo hari-no joe-ni baNba edo ju'
なるほど, ハリの 上に 婆 糸 ユウ

N edo underuqt
糸 ウンデルって(いのだ)

H edonderu ↗
イドンデル ↗

K ido nuqteruNdesubæ.
糸 ぬってるんでしょう。

N ko'site edo umuqteba edo umuto jueba.....
こうして, 糸 ウムっていえば 糸 うむと いえば,

K i d o u n d e r u n d e s u n a b a h a N
糸 ウンデルンですなあ, ははん。

N nāyagu narasjeru eni ko· jori kagede < H
長く ならせる ように, こう 捗を かけて
haha· naru-hodo > jaqta monda mono.
ははあ! なるほど やった ものだ もの。

H hari-no joeni baNba edo uNderu
梁(ハリ)の 上(ヨエ)に 婆 糸 ウンデル

N edo uNderu q te-aNda. uNderu-dara moquaNtategæ.
糸 ウンデルっていうんだ。 ウンデルなら (子)持つ(産んでる)こと
だよ。

K uNderu uNderu
ウンデル, ウンデル,

N a.
うん。

K nu·kodo-ne
<縫う>ことねえ。

N n·n· no·goqte neanda kore.
ん んー, <縫う>ことではないんだ, これ。

H cunagu koto - desjo.
つなぐ ことでしょ。

K (cunāgu koto) ha ha.
(つなぐ こと) は はあ。

N cineqteru jaçudamono, ko.
ひねって のだもの, こうして。

H a· cumugu koto - dana
ああ, <つむぐ> ことだなあ。

N nāyagu seru-nada.
長く するのだ。

K ha nāyagu-suru-na
はあ 長くするの(だね)。

H kumo-no-su desu-ka
クモの巣 ですか。

N N da
そうだ。

H kūNbo - des jo.
クンボでしょう。 (発音についていう。 [kumo] でなく [ku[~]bo] だろうという意味)

N ~ a . kūbo
R うん クンボ

H kūbo - no - su
クンボの巣。

N N .
R うん。

【6】弁慶の話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本	だけ	
R	安藤リワ	々	々 17年生	々	々		
U	吉田運蔵	男	々 16年生	々	々		
H	北条忠雄		(聞き手 編者)				

解説： 武蔵坊弁慶そのものの話ではない。弁慶の立往生にさも似たる魚刺具のベンケイである。
<鯨ノ一本ザシトカケテ牛若丸ト解ク><マグロノ一本焼トカケテ牛若丸ト解ク>いずれも心は
<ベンケイが恐れる>からだ。このベンケイも、囲炉裡がすたれ電気焼器がさかえ、味の素デラ
いの一番デラがはびこるとなると、それに人の口(クチ)も奢ってジャコなどベンケイ用の小魚
などに目もくれない時世となつては、もうそのものも名も忘れられつつあり、やがては永遠に消
えてしまう。こんな運命のベンケイについていろいろと話しあってみた。

H a n o b e n k e · q t e n a a r i m a s u (k a) s i q t e o e d e d e s u k a .
あの ベンケイというのは (言いなおして) 知って おいでですか。
(ありますか)

N modo - daba b e n k e · q t e n a j a < R N > b a b a , k o · j o ·
以前なら、 ベンケイというのは、 なあ 婆、 こういう
d o - s a k a g o k o - s a w a r a k o z u q p a r i s j e d e s o -
ところへ 箕に 薬を いっぱい 入れて そ
s i t e s a g e d e d e k o n o a n b a n i a n b a n a k o n o - g u r a e -
して 下げておいて こんな、 具合に, 具合な, このくらい
b a r i n i a c q s a g e d e d e s o r e s a k o n d o k u s i - s a
ほどに, ものを 下げておいて, それへ こんど 串に
s a s t a s a g a n a z u q p a r i k o · s a s t e s t a m o n d a
刺した 魚を いっぱい このように 刺した ものだ
m o n o n a . u e s a s a g e d e d e n e g o k w a n n e t e d o n i .
もの。 上の方に 下げておいて, 猫が 食わない 程度に。

H e m a w a a n m a r i m i e n a e w a g e d e s u k a .
今は あんまり 見えない わけですか。

N e m a s o · s a n a e a n d a m o n o - n a . a n o r o , r o n e m o n d a
今は そのように しない もんだものなあ。 あの 炉, 炉が 無い
m o n o . e r o r i n e · m o n d a m o n o . k u s i - s a j a e d e
もんだもの。 囲炉裡が 無いもんだ もの。 串に(さして) 焼いて
k u t a s a g a n a - n o e n i N m a e g u n e t a t a t e e r o r i e m a
食った 魚の ように うまくないにしても, 围炉裏 今
e r o r i n e k u t e k u s i s a s a s t e a b u r a n e m o n o n a .
囲炉裏が なくて 串に 刺して あぶらないものねえ。
s j e b a k u s i - d e n e · b a n a n i - s t e s o r e a m i w a d a s i -
すると, 串で なければ, なにして, それ アミワタシ
d a n o a n o j a r e s a g a n a j a g i d a n o q t e j a g e b a
だの あの やれ 魚焼きだの いって, 烧けば
s o r e q e d o - s a t o q t e s i t e k u · m o n o . j o g e n a j a c u
それ 濑戸物へ 取って そして 食うもの。 余分な ものを
m o q t e d e m o d o - n o j o · n i - d a b a a b u r a n e s u n a j a .
持っていて, もとの ようには あぶらないものねえ。

R ~aburanesu.

あぶりません。

N modo-daba sjeba zjako-demo naN demo cirkame de
もとなら すると、 小鮓でも 何でも つかめて

keba beNke-mo namo kuzureqtagē sasite sosit-
ぐると、 ベンケイも なにも 崩れるくらい 刺して そし

te sore dasi-ni toqte kuqta mondata te, ema-
て それを ダシに とって 食うた もんだが、 今な

dakjæ na·ni dasiqte jueba jagibosi-dera
ら なーに ダシと いえば ヤギボシだの

daqte-kodeno ko·midæna monosjede kuqta
などいったものや 粉みたいな もの入れて 食っている

ora-mo s̄iranetaqte nibosinanda ga jagibosi-na-
オラも 知らないが、 ニボシだが ヤギボシ

Ndaga kaqte kite sosite azinomodo-dera-daqte
だが 買って 来て そして 味の素とかいって

sjede sosite kuqteru-de negæ.
それをいれて そして 食ってるで ないかね。

U kuzirano iqpi kizasi to kakete nanto toku, kokoro-
<鯨の 一匹刺し> と かけて 何と 解く、 心

wa beNke-mo komaru. usiwakamaru-wa taihen
は <弁慶も 困る>。 牛若丸は 大変

cujo i-kara beNke-mo komaqta wake-desjo. aite-
強いから 弁慶も 困った わけでしょう、 相手

ya dekinakaqtadesjo.. mada sono kuzira-no iq-
が できなかつたでしょう。 また その <鯨の一

pikizasi-wa kuzira-wa okie mondesjo.. beNke-
匹刺しは 鯨は 大きい もんでしょう。 弁慶

wa ciesakaqtadesjo.. dakara kuzira-o totemo
は 小さかったでしょう。 だから、 鯨を 取っても

beNke-no naga-ni ireru kodo deginai wake-
ベンケイの 中に 入れる こと できない わけ

desu-jo. dakara beNke-mo komaru-to ko-ju-ko-
でしょう。だから ベンケイも 困ると、 こういうこ
to-d esu-ne.
とですね。

H kuzira-no eppon (K) i q p i k i z a s i .
<鯨の 一本…… 一匹刺し

H e q p i k i z a s i - d e s u k a
一匹刺しですか。

U kuzira-no i q p i k i z a s i - t o kakete dasubæ.
<鯨の 一匹刺し>と かけて でしょう。

(N) Nda. (K) n a n t o t o g u .
そうだ。 何と 解く。

H a r e hacirogada-no, are doqci kana. hacirogada-
あれ、 八郎瀉の、 あれ どっち かな。 八郎瀉
no doqci-no ho desitakana. asoko-dewa magu-
の どっちの 方でしたかな。 あそこでは <マグ
ro-no epponjagi-to kakete desitane.
ロ(鯨)の 一本焼> と かけて でしたね。

U ha · so gae .
はあ、 そうかね。

H maguro-no epponjagi-to kagete usiwakamaru-to
<マグロの 一本焼>と かけて 牛若丸と
tokuka. kore-mo, maguro-no epponjagi-mo beN-
解くか。 これも、 マグロの 一本焼も ベン
ke-wa komaru wage-da.
ケイは 困る わけだ。

N Nda-na .
そうだな。

H ema beNke-nado oeteru uci-wa naedesjo-ne
今、 ベンケイなど おいてる うちには ないでしょうね。

N Nda. toqte nayeda ha . (笑)
そうだ。 とって 投げてしまった！

H are, ko· kāgo-no tokoro e wara-o zuq p a i ered e...
あれ、こう 箩の ところへ 薬を たくさん いれて……

N N da, N da
そだ、 そだ。

H sos i te ko· sas u - nomo aru si, tāda ko· wara-o
そして、 こう 刺すのも あるし、 ただ こう 薬を

((N) māy e de gae) c jo q to marume- danomo aru N z ja
(曲げてかね) ちょっと まるめたのも あるのでは

na e de su ka.
ないですか。

N N da. kāyoko næba so·s i ta.
そだ。 篠が なければ そうした。

R (笑声) N da.
そうした。

N kāyoko kauaçute-node (nedemoか) ko· karaga e de
籠を 買うのでなくて こう からがいで
..... sore - demo keqko· sasa q teru mono.
.....それでも うまく 刺されている もの。

【7】男鹿地震の話(その一)

録音日時 1967年2月26日

9月3日 臨地検討

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ メ ♀ 17年生 メ

H 北条忠雄 (聞き手 編者)

解説：もう29年になるという男鹿地震の話。その時の模様がこまかに具体的にいきいきと語

られている。「吉ノ爺さま、オヤッ 婆！地震ダデアトイウシ、ナムモカモ、ソシテルウヂニ、
グワリ グワリ グワリ ド落チシマッテ、ミデルウチニ ソゴノ アノ オンチョノ家 ツブレル
シ、サーコンド、善助ノ家ツブレダ、オレノ家デハ カタガッテシマッテ アトハアナムカン
モナンネエ」まことに見事な活写である。

H z̄ s̄ i N-wa e k u c u - k u r a e - n o t o k i - d e s i t a , o b a : s a N .
地震は いくつくらいの 時でした, お婆さん。

N z̄ s̄ i N-gae . z̄ s̄ i Na k o d o s̄ i - d e n i z j u · s̄ i c i n e N - d a - g a e .
地震かね。 地震は (今年) 二十七年だかねえ。
ことして

R k u n e N n a r u . k u n e N n a r u !
(二十)九年に なる。 九年に なる。

N n i z j u · k u n e N - n i n a q t a g æ h a .
二十九年に なったかねえ。

R N
うん。

N N d a n a . a n o d o g i a m a d a h i d æ g a q t a d æ n a .
そうだなあ。 あの ときは まだ ひどかったなあ。

R o r e - n o h o r a z̄ s a m a ,
オレの, ほら, 爺さま

N n i z j u · k u n e N - n i n a q t a
二十九年に なった?

R N d a , n i z j u · k u n e N - n i n a q t a . c j o n e N
そうだ, 二十九年に なった。 去年

N s̄ i e b a , o r e - n o s a b u s̄ i e b a n i z j u · k u - n i n a q t a g æ .
すると, オレの 三(郎), すると, 二十九に なったかねえ。
ナフ

R o d o d o s̄ i o r e , a e d a - m o n o , n i z j u · s̄ i c i k a (e) d a m o n o .
おととし, オレ, あれだもの, 二十七回(忌ナラム)だ もの。

H z̄ s̄ i N - d e n a k u n a q t a k a t a - m o o q t a N - d e s u - k a .
地震で なくなった 方も おったんですか。

N ~ a · N , s o r e s o g o - n o s o b a - n o z j e N n o s u k e - n o n a j a
はい, それ そこの 側の 善之助のねえ

z i q c j a e N - n o - s i t a - n i n a q t e s i N d a n e g æ .
鎧ッチャ 家の下に。 なって 死んだもの(直訳<死んだではない
か>)

H ha .
はあ。

R o r e - n o t o n a r i - d a .
オレの 隣だ。

N c u b u r e d a e - q t e n a g e N - m o a q t a e e d e n i c u b u r e -
つぶれだ 家というと 何軒も ありました。ひどく つぶれ
d a e . n a .
た 家がねえ。

R n da . . j a q p a r i a n o z i s i N - d e e n o m o n o - m i N n a ,
そだ。 やっぱり あの 地震で 家の 物みな(つぶれ)
c j o - n o s y k e - n o k o - m o s i N d a b a , f u t a r i - m o s a N n i N -
長之助の 子も 死んだし, 二人も 三人
m o s i N d a n a ,
も 死んだ。

H e c u g o r o - n a N - d e s u , a n o z i k o k u - w a .
いつごろなんです, あの 時刻は。

N f u r o e d a q t a n a n i z i g o r o - d e a q t a n a .
震えたのは 二時ごろで あったな。

R n d a - n a , o r i d e q t e - g a r a - d a m o n o .
そうだな, (田圃へ)降りていってからだ もの。

N o r i d e q t e - g a r a - d a m o n o , n i N n i z i g o r o , g o o o - n o
降りていってからだ もの, 二時ごろ 午後の
n i z i - g o r o - k a r a n i z i g o r o n i , b a q c i r i n i z i - d a d e -
二時ごろから, 二時ごろに, バッヂリ 二時だとい
w a g e - m o n e · s i , < R a · j a > s o r e - j o k a h a j æ
わけも ないし そうだ それよりか 早い
w a g e - d e n e · d o m o , o r a w a g a r a n e d o m o m a N c u
わけでも ないけれど オラア はっきりしないけれど, まず
(俺)
n i z i - g o r o d a q t a n a .
二時ごろ だったな。

H oba:s a N-n a d o t a N b o - n i o r a r e t a N d e s u k a, n i N z i -
おばあさんなど 田圃に おられたんですか, 二時

g o r o .
ごろ。

N a r e, s o r e, t a N b o - s a t a . u c h - n i e q t e a q t a n a,
アレ, ソレ, 田圃へ 田を 打ちに 行って あったな,

a d a r i - n o m o N - d a b a .
近所の 人たちは。

R N d a .
そうだ。

N s h t a - d o m o o r e - n o m u s u m e - s j æ k o m o q t e d e a q t a
けれど, オレの 娘よ 子 持って いた
m o n o - n a, w a r a s i m o q t e e d e a q t a m o n o - s æ s o N d e,
ものなあ, ワラシ(童) 持っていて あった もの, それで,
(赤ん坊)

H a q, o s a N - d e ,
アッ お産で

N ~.
R a .
はあい。

H o s a N - d e , k o d o m o - s a N m m a r e - t e o q t a N - d e s u k a .
お産で, 子どもさん 生れて おったんですか。

N ~.
R a .
はあい。

N s o r e d e s o n o d o g i e q s j u . k a N - m e - d e a q t a m o n o - n a .
それで, その 時 一週間め あった ものなあ。

R N d a g a e .
そうかね。

N u N . s o . j u . k o d o n e t a t e , o r e - n o j e - d a b a h i d o -
うん。 そう いう ことが なくても, オレの 家なら, ひど
g u e d a N d e a q t a m o n o - n a .
く 傷んで いた ものな。

R N d a .
そだ。

N modo-no jedaba kore-jori zaqto oqkigata
もとの 家なら これより ずっと 大きかった
(今の家)

mono. sonde mānçh ko jo anbae-ni naqta
もの。 それで まず こう いう 具合に なった

mono-na. kogo-sa adarine jene amadare oçide-
ものな。 ここへ あだりに 家に 雨垂れが 落ちて
(家のここらあたり、分析的表現)

ru mono-ga mæ-no ho-sa cñomeqte, saNZjagu-mo
る ものが 前の 方へ つんのめって, 三尺も

mugoo-sa cñomeqte, sono amadare oçide aqta
向こうへ つのめって, その 雨垂れが 落ちて いた

mono-na. sore-dage kadagaqta monde agtante-ga-
ものな。 それくらい 傾むいた ものだから,

ne jaqto todasita-ne-gæ, cjan to. annakotaba
やっと (娘を)出したもの ちゃあんと。 あんなことは、

hontone nantoga sjeba e-Ndaga ade negaqta.
ほんとに, 何と すれば いいのか アテが なかった。
(目当)

sore, kondo taehigoja-no kuso kaddmededa
それ, こんど, 堆肥小屋の 基礎 固めていた

dogo daqta mono-na. < R u·N > jesit-no zis-sama
ところ だった ものね。 うーん 吉(田)の 爺様

ki te, soe kondo sjemeN noqtede kede aqta
来て, それ こんど セメン 塗って 吊れて いた

mono-sjæ, ore konda noqgi hide noqgi hide-ha
ものねえ, オレ こんだ 暑い 日で 暑い 日で

manma kuqtaba sogo tadeqte kenega, anmari
飯 食ったら そこを 閉てていって 吊れないか, あまり

nogiant e ore ma (ne)hitoneri neragte so-
暑いから, オレ まあ 一寝入 寝るよって そう

ju-si, a·Ndaga sitara ore tadeqte eganaqte
いうし, うん そだか それなら オレ 閉てて 行くよって

kogo-sa kæmesinabeko kageru-bar-i-ni site
ここへ 粥飯鍋 かけるばかりに して

kon o kāy i-sa kagede, sōs i-te kur a-sa kome
この 鉤に かけて、 そして 倉へ 米

eppjo· ~ aede tagade aqtedaba, tagade mo· hi-
一僕 上げて 持って 歩いていたら、 持って もう 一

togari egeba e-baride aqta wage-dana. sono
遍 行けば いいばかりで あった わけだ。 その

dogi, kondō nani sita mono-na, na·nto jēmeni-
時、 こんど、 なに した ものなあ、 なあんと 家前には、

daba, sore jesahaeqtekuru-do omoqtaba, mme-
それ 家へ 入って来ようと 思ったら、 梅

nō-gi musjoni ugogu mono-na. so-siteru ugi-
の木が 無精に 動く ものな。 して うち

ni, josino zisama oja baba zisindadæqte jussi,
に、 吉の 爺さま 「おや 嫁、 地震だ」と いうし、

namo kanmo, so-siteru ugi-ni, gwarei gwarei
なにも かも、 そうして うちに、 グワリ グワリ

gwarei gwarei ocide simaqte, mideru ugi-ni
グワリ グワリ 落ちて しまって、 見ている うちに、

sogō-no ano oncjo-no je cubureda, sa· kondō
そこの あの オンチヨの 家 つぶれた さあ こんど

(屋号)

zen nosuke-no je cubureda. ore-no jedeba
善之助の 家 つぶれた。 オレの 家は

kadagagte simate ado-ha namo kanmo nanne.
傾むいて しまって あともう どうも こうも ならない。

【8】 男鹿地震の話(その二)

録音日時 1967年2月26日

(同年 9月3日 臨地検討)

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ メイ 17年生 メイ

H 北条忠雄 (聞き手 編者)

解説： [7]につづくもの。テープの都合で一連続のものを[7]と[8]とにわけた。産後一週間目赤ん坊を抱いて寝床にいた娘さんを下ダシした母親(今の老婆)の愛情が胸を打つ。〈デハテ(外に出て)死ヌヨリ寝床デ死ンダホーエガッタ〉外に出てもなおあぶなかった激震を語る言葉である。最後の結び、ホントネ(に)アングラオッカネアメニ アウコトモ アルモンダネエガ。トダスは〈出す〉こと。〈取り出す〉がら。ダスはこの地帯で共通語のヤル(与える)意味に用いているので、ダスはトダスという。秋田一般はクレルもヤルもともに〈ケル〉である。

N ande aqgu-mo namo narankute, je-sa haqte
歩いても うまく どうも 歩けなくて 家へ 入って

kuro-do omoqtaba, mododaba kue Nna niwa-nō
来ようと 思ったら、 以前は 杭は みんな ニワ(土間)の

harusa aqede edaqta mono-na <R Nda>
梁へ 上げて おいたものなあ そうだ

tara-do tara s̄izju-mo gozju-mo ande aqede
儀と(いっしょに)。 儀 四十も 五十も 編んで あげて

aqta aqmo maroqkiri oqit-te simate, je-sa
あった のも すっかり 落ちて しまって 家の中へ

haqte koraene-mono-na. <R un. > na-sini haqte
入って こられないものな。 うん。 「なにしに 入って

eguqte, ema je c̄bureru dogo-da, haqte egut
いくってえ、今 家 つぶれる ところだ、 入って 行く

naqte. oja, oq+jo nededa mono nanto-s⁺te
な」ってえ。「おや、お千代が寝ているもの、なんとして、

sore-daba eganebanan neqte sogo-gara haqte
それは「行かなければならぬ」といって入って

kuru-taqte korarene mono-na. <R uN.> so·ju.
くるといつてもこられないものなあ。うん そう いう

mon dada te kondo koqci no ho-no amado-gara
もんでもこんどこっちの方の雨戸から

kondo soe amado-mo konda ko naqta-ba agar-a-
こんどそれ雨戸もこんどはこうなつたら開か

næbæ. <R uN.> sore-de kondo jabus⁺te sosite
ないだろ。うん。それでこんど破ってそして

nedogo-sa e qte fuqqagte kita monda. sono ko
寝床へ行ってひっぱって来たもんだ。その子

hitori dagasjede kondo, sono cianto, konda
ひとり抱かせてこんどそのちゃあんと、こんどは

sora naNboga naqta mondabeka, modo-daba ni-
それほどになつたもんだろか、もとなら二

z juec+i niç+i dogasan^ε monde aqta mono-na.
十一日(間)(寝床を)退かさないもんであつたものなあ。

<R uN.> kondo nantomo narans⁺, soe todasi-
うん。こんどはどうもならないし、それを出し

te kitaba kogo-no ogano mama mada emadaba
て来たら、ここ岡の崖(ガケ)がまた今なら

ko·hiroe-domo sono mama zu-qto konda kuzurede
こう広いけれどそのガケがずっとこんどは崩れて

kita monda. benzjodo je-do kondo ko ctagu-
来たもんだ。便所と家とこんどこうくつぐ

dage unyoguac^gha. nanto kantomo, ore sjeba
くらいに動くのだよ。なんともかんとも、「オレすると

de hate kite sinu-andagæqte ju·mono-na.
出て来て死ぬのだか」というものな。

⟨R. uN.⟩ de hate kite s̄inu-aNDaba nedogon-i
うん。 「出て 来て 死ぬのなら 寝床に

ede s̄i Nda ho egaqt-a-deq te so ju'si, s̄itadomo
いて 死んだ 方が よかったよ」と そう いうし, だが,

m̄anç̄ m̄anç̄ dogo-sa currede egeba e:N-dero-to
ます ます どこへ 連れて 行けば よかろうかと

eq takjæ manç̄ ma kongækæ-no kiso-no naga
言ったら, まず まあ 肥塚の 基礎の中

kadamaqterantegani kogo-sa curre-de koe(qte)…
固まっているから ここへ つれて 来い(って)……

so·site kondo sono soqkara konda-nON nON
そして こんど その そこから こんどは グン グン

nON-do hasjede aqte tara go-hjo-mo saN-bjo-mo
グンと 走って 歩いて 僕 五僕も 三僕も

m̄anç̄ hagoN-de sjeba s̄ide nemarasjede s̄ide
ます 運んで, すると (それを)敷いて 坐らせ敷いて

nemarasjedataqte m̄ada harusagi-de s̄abi si,
坐らせたっても まだ 春先のことでの 寒いし,

futoN-mo neba namo nekute, ma:d'a, soe sono
蒲団も 無いし 何も 無くて また それ その

ogu-no ho·gara kondo jes a eqte nemagi moqte
奥の 方から こんど 家へ 行って 寝巻 持って

kite sosite kondo sogosa futon tagadeqte-na
来て そして こんど そこへ 蒲団 持って行ってな

⟨R. uN.⟩ hitobanqé konda sogos a kō dāgi;
うん。 一晩げ こんどは そこへ 子 抱き,

Nde s̄imi-no eNda açu kaqta açu so do-no hija-
そして 炭の 様な もの 買ったのを 外の 廉

s̄i-sa aqede aqta açu sore Nna magurede kita-
へ あげて あったの それが みな ころげて 来た

s̄i, ore tagade aqta kome jes a moqte konede
し, オレ 持って 歩いた 米 家へ 持って 来ないで

sodo-ni arusi, hore, konda koqigara mo qte
外に あるし、 それ、 こんどは こっちから 持って

(eta) kemeshinabe jaqtoga tagade kite sicire-
(いった) 粥飯鍋 やっと 持って 来て 七輪

N-do tagade kite soete kondo sodo aqkone ede
と 持って 来て そして こんど 外、 あそこに いて

ma Nma taeda wage-ja. <R Ndaga. > sosite
飯 炊いた わけよ。 そうか そして

kondo kæmesi nide ma Nma kwasjede soe mo ha...
こんど 粥飯 煮て ごはんを 食わせて、 それ もう ハア

macuri cikagumo narusi,na. <R uN. >
祭 近くも なるし、なあ。 うん。

tonari-no jegara moraqtarai sita acta sosite
隣の 家から 貰ったり した の、 そして

jade oede aqtaaqe jaqv, kondo ma ma ha.
焼いて 置いて あったの、 こんど まあ まあ ハア

naniga nusando midæni site koqigara mawaqte
まるで何か 盗人 みたいに して こっちから 遷って

ete kondo todana-gara tagante aqte ni-de
行って こんど 戸棚から 持って 歩いて 煮て

ma Nma sosite kondo ma Nma kwasjede, hitobange
ごはん そして こんど ごはんを 食わせて、 一晩げ

soni ede seno nanda endo nigorogaqte erutata-
そこに いて、 その なんだ、 井戸が 潜って いても、

te endogara mancq ma minzu kunde manma ta-
井戸から まず まあ 水を 泡んで ごはん 炊

de jagimesi-nikite, manma tade jagimesi-niki-
いて 焼飯を握って ごはん 炊いて 烧飯握って、

te, cinqcja nabeko-dandamono-na. <R uN. >
小さい 鍋コなのだものなあ。 うん。

site, soe kondo nna santo nanto sitaqt
そして、 それ、 こんど みんな 産人(なんだから) なんと したって
(皆)

murac̄jir̄-no mono kurubae. <R. Nta> na. nanto
 村中の 人が くるだろ そうだ/なあ。 「どう
 s̄ita, nanto sitaqte sono nanno kuru mono.
 した どう した」といって その なんの, くる もの。
 sjōNbo-gada-gara mura-no hitogada nna santo
 消防がたから 村の 人たち みんな 産人
 nanto sitate kite kerus̄i, sore māc̄u santo-mo
 何と したって 来て 呉れるし, それ まず 産人も
 naNmo eante jagimeshi, kegte. naNc̄ju:-gæri
 何も いい(無事だ)から 烧饭 食えっというわけだ。何十遍(となく)
 joqta monda <R. Nda.> naN:c̄jugæri-demo joru
 揺った もんだ。 そうだ。 何十遍でも 揺る
 monda monona <R. naNto: site.> Nde s̄jeba ae
 もんだ ものなあ。 なあんと して。 それで, すると, あれ
 he·ba hitoban ye-ni saNc̄ju·naNbo-gæri-daba joqta-
 すると, 一晩げに 三十何遍は 揺った
 takena <R. N. >
 けなあ。

hon tone andara oqkanæmeni aukodomo arumo N.-
 ほんとうに あんな 恐ろしい目に あうことも あるもん
 danega.
 ではないかね。

【9】お風の対話

録音日時 1967年2月26日
 録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本	だけ	
U	吉田運藏	男	〃16年生	〃	〃		
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)				
H	北条忠雄		(聞き手 編者)				

解説：録音中にお昼になり、昼食のご馳走にあづかった。

これは、その昼食中のなまの対話である。実はこの対話録音を特に注目したのは、話中に出てる
<z+iNōisiteranāndera>という語句ー表現が見えるからである。秋田のよそなら普通
<z+iNōisiteranādabe><z+iNōisiteranādasəbe>などなるところ。

N gohan nobede

ご飯を だじて(ください)

K i ja takusaN ado korede zju·buN-desu
いや、たくさん。もうこれで十分です。

U juqkuri aga qte
ゆっくり 上って(ください)。

N sjeNsje sore z+iNgi s+terujodanāndera
先生！ それ 遠慮 しているのでしょうか。

K eq /
えつ /

N z+iNōi s+terujodanāndera
遠慮 しているのだろうてえ。

K z+iNōi s+terar / nante imidesuka
ジンギ シテラ / 何という 意味ですか。

N eNrjo-s+teru-de ju: kodo
遠慮してると いう こと。

K naNno eNrjo-site nai zju·buN onaga iq pæda.
何の 遠慮して ない。十分。おなか いっぱい。

sense. ano z+iNōisiteraqte eNrjositeruqte ju-
先生 あの ジンギシテルって 遠慮したこと いい
suka. so. ju·subəg a.
ますか。 そう いうでしょうか。

H e. e: ju·desune.
え えー 言いますね。

K ora h̄azimedē kida kore
オラア はじめて 聞いた、これ。

N agi reda mon dane.
あきれた もんだねえ。

【10】おじいさんとおばあさんの喉のど

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
U	吉田運藏	男	明治16年生	農業	脇本	だけ	
N	吉田ナツ	女	〃22年生	〃			

解説：おじいさんの唄は<脇本は火事で二度焼けたが三度焼けたらそれこそどうにもならぬ>という趣旨だが、どういう時語うのか聞きもらした。お婆さんは、臼引歌のよし。じいさんのも或はそんな時のものか。

(イ) おじいさんの唄

U wagimodo-wa na-n-o baçu-jara nido jageda.
脇本は 何の 罰やら 二度 焼けた。

sando jageda, sando jagedara nodadzane-dja.
三度 焼けた、 三度 焼けたら 容易でない。

a: jagedara sando jagedara nodadzane-dja.
あー 焼けたら 三度 焼けたら たいへんだ。

ja: do na:
ヤート ナー

(ロ) おばあさんの唄

N s̄abukaze-no gorin naane-no: (tona) edosusugi
寒風の 五輪長峯の (とな) 糸薄ススキ
edosusugi umani cukedemo jura jura-do:
糸すすき 馬に 付けても ゆら ゆらと

(cuzugane anda) masaga cuke-demo jura jurado
 (つづかないのだ) 馬に つけても ゆら ゆらと
 —自分の声のこと—
 ja:to na: koju. uda·da.
 ャート ナー こういう 歌だ。

[11]

【11】餅のかぞえ歌

録音日時 1967年2月26日
おがしわきもとおおくら
 録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本	だけ	

- 解説： 1. フトツーフグダモヂ 6. ムツツーミヤゲモヂ
 2. フタツーナリダ・モヂ 7. ナナツージョニモヂ
 3. ミツツーミソツケータンポモヂ 8. ヤツツーカザリモヂ
 4. ヨツツーアンヅキモヂ 9. ココノジーオガノモヂ
 5. イツツークスリモヂ 10. トオーセンキモヂ

どうもモチゴメをついた、本物のモチでないのもありそうだ。以上このままでは続かないものあるが、それはここでは橋わたしのことばを省いたから。例えば、フタツ フウフノ・ナリダモヂというように。

N futoçtu fugureda fugudamoc̄t. futaqca fu-fu-no
 一つ 膨れた ふくだ餅 二つ 夫婦の
 narida-moc̄t. miqca miso-cake tanpo-moc̄t dae.
 なりた餅 三つ 味噌付け たんぱ餅(だよ)
 joqca jōgore-da adzugimoc̄t. eçcqca esjādō-no
 四つ 汚れだ 小豆餅 五つ 医者殿の
 kusarimoc̄t muqca musame-no mijāye-moc̄t.
 くすり餅 六つ 娘の みやげ餅
 nanac̄t nanakusa zjō-nimoc̄t. jaqc̄t jastagi-no
 七つ 七草 雜煮餅 八つ 屋敷の
 kazari-moc̄t. kogonoc̄t konojeno oganomoc̄t.
 飾り餅 九つ この家の おがの餅

to-ni tosorino senkimogi, nada.
十に 年寄りの せんき餅， なんだ。

【12】若い時の話 ちょっぴり

—夫婦仲よくかせいだこと—

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市勝本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 勝本だけ

解説：題名の如くしかり。

しかし、ちょっと。田へも山へも<働きにゆく>のをすべてオリルと言い、帰宅—仕事から帰ることをアガルということ、この短い中にあらわれている。

N ore-daba jama-sa oride egugte jueba, je-no
俺は 山へ おりて いくと いえば、 家の
naga kada cke-de, soqte to tade-de to sime-de
中を かつけて そして 戸を たてて 戸を 締めて
eqte, je-sa kite ma Nma-no sitagu site kuta
いって 家へ 来て 飯の 支度を して 食った
mo Nda-mono, wakae ugi-na. sje ba, ore-no dzicja
ものだもの、 若い うちは。 すると、 うちの 爺は
mada agaqte-gara kond o tamawari guruj to site
また (田から)上ってから 今度 田廻り グルッと して
sosite kuru-anda mono.
そして くるのだ もの。

K hahah tan tamawari site kuru walge-ne.
ハハア タン 田廻り して くる わけねえ。

N s o s i t e j e s a k i t e m a n m a k u a n d a - m o n o - n a . s o n o .
そして 家へ 来て 飯 食うのだものなあ。 その
t a m e - n i d o q c i - m o e s o g a s i a c q - d a m o n o - n a .
ために どちらも いそがしい のだ ものなあ。

【13】やづのめ

—一つの花に実が八つなる梅の話コ—

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本	だけ	
R	安藤リワ	〃	〃17年生	〃	〃	〃	
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)				

解説：一つの花で実が八つなる梅——オラ（俺）食ったこともないし、なってらどごみたこともないがたしかにあると信じている話。話し手のアルデゲア（←アルドガエ[arudogae]）に対して聞手が<アルデショウ>と理解したのに、<アルド、ハッキリアルアンダ>と力を張って言っているのがコトバの上でおもしろい。ガエに対する聞手の誤解である。

N s o r e - g a r a s o g o - n o s a d o - s a N - n o j i e - n i - m o ume b a j a -
それから その 佐藤さんの 家にも 梅林
s i a q t a s t n a . e m a - d e m o k a s i m a s a m a q t e e w a g u r a n o
ありましたね。 今でも 鹿島様ってえ 岩倉の
h a z i z i r o s a m a - s a e g e - b a k a s i m a s a m a - n o s o b a - s a
八次郎様へ 行けば 鹿島様の 側に
e g e b a j a c t n o m e q t e a r u d e g a e , o r e d a b a e q t e m i d a
行けば ヤツノメって あるとよ, オレなら 行って みた
k o d o - m o n e d o m o . h a n a f u t o c u s a j a q c t n a r u d o .
ことも ないけれど, 花 一つに 八つ なると。

K ja-c u-f u-s a-n o-m e q t e n e
ヤツーフーサーノーメってね。

N N da . ja c u-n o-m e , s o r e-d a b a u m e c u k e-n i c u g e d e m o
そうだ。 ヤツノメ, 那れは 梅漬に 漬けても
k a w a r i n e q t e-a n t a .
変りは ないとだと。

R h o N d a - j a .
そうだよ。

K ja c u n o m e q t e o i s i e m o n d e s j o-n e . N m æ m o N - d a s u-
ヤツノメって おいしい もんでしょうね。 うまい もんでしょう
b e n a .
なあ。

N n a n t o g a n a n d a g a , o r a k u q d e m i d a k o d o-m o n e s i
どういうものか, 僕 食って みた ことも ないし。
n a q t e r a d o g o m i d a k o d o-m o n e-n o h ~ b a n o .
なっている ところを みた ことも ない。 の そばの
k a s i-m a s a m a -n o h ~ b a -n o j a c u n o m e q t e j u . k i
鹿島様の そばの ヤツノメって いう 木
e q p o d o , m u g a s i-g a r a -n o k i .
一本 と, 昔からの 木。

R

N a e , m a c u k a s i-m a s a m a -n o k i . o : m u g a s i-g a r a
.....あい, ます 鹿島様の 木。 大昔から
a r u a n t a g a e , j a c u f u s a n o u m e-d a q t e j u . m o n o .
あるのだよ, ヤツフサノウメだと いう もの。
s o n o u m e a r u - a n d a .
その 梅 あるのだ。

K a r a N c j a g e q t e j u . f u . n i k o . j u . N - d e s u -n e , a r u -
アランチャゲって いう ふうに こう いうんですねえ, ある
d e s j o-n e q t e n e .
でしょうねえっていうことね。

N aru-do. haqkiri aruanda.
あると。はっきり あるのだ。

K Ndase na. arancjag e q te to-ju-bae-daba arude-
そうですねえ。アランチャグエという場合は、<あるで
s jo.-das bæ.
しょう>でしょう。

R hoNda.
そうだ。

K arudaro-q te-ne, ju imi-ne, arudo q teba haqkiri
あるだろうってね、 いう 意味ね <あると>っていえば はっきり
aru wage-da.
ある わけだ。

N haqkiri aruanda.
はっきり あるのだ。

【14】繁次郎の話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居 住 歴)
N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

解説：大分のキッショムみたいなものがどこにある。いわば日本の伊曾保氏である。ここに四つ話してあるがあまりたいしたものではない。

① 鯉は川に ② 紅餅 ③ 山さ行つてマギきり ④ 若勢ぶり

① 鯉は川に

N siNDeziro, siNDeziro, ba ba-do futari ede aq-
繁次郎， 繁次郎， 婆と 二人で いて あっ

t a d o g æ . m u s a s i n o s i N g e z i r o - n o b a b a - n a n -
たとよ。 武藏の 繁次郎の 婆なあ なあん

t o k a r a t e j a n d e s j æ j a n e d e b a m o t e k u r u s i ,
と からだ {は 痘むし } 屋根てえば 漏ってくるし
を 病んでそれに

m a . h j a q k i g u r o m i - n i n a q t e m e s i - m o n a N m o
まあ 借金ぐるみに なって 飯も なにも

k w a e n e w a g e , m a e n i c i n e d e r u j o r i - m o h o g a n a -
食われない わけ、 毎日 寝ているより ほか な

g u t e - n a . s o s i t e a m e - w a f u r u s i - s j æ , n i w a - m o
くてなあ。 そして 雨は 降るし, 庭も

n a N m o k a w a - n i n a q t e s i m a t a w a g e - d a . s i t a b a ,
何もみな 川に なって しまった わけだ。 したら

s i N g e z i r o , n a . N t e m a d a j a n i w a - m o n a N m o k a w a - n i
繁次郎 なあんて また 庭も 何も 川に

n a q t a n e . k o r e - d e m o s i e b a a s a N d e r u g æ q t e , b a b a
なったなあ。 これでも、 すると、 遊んでいるのかと 婆,

s o r e k u d o e d a - d o , e c i n i c i . c j a m e z j o r i d o n t o
それ、 口説いたと, 一日。 チャメ ジョリ ドンと

n a d e - d e , s o r a b a n b a k a d o o j o n d e k i t a c h k a m e r a
投げて そら 婆 鮫 泳いで 来た, 握め
(にしん)

k a d o o j o n d e k i t a . n a k a w a - d a m o n o k a d o o j o n d e
鮫 泳いで 来た。 なあ, 川だ もの, 鮫 泳

N d e k o n e b a n a n n e - n a , s o . j u . m o N - d a w a g e - s j æ .
いで 来なければ ならないなあ。 (万事)そうした わけだ。

② 紅餅

N t o n a r i - n o m o n o m i r e , a s a q - k a r a b a N d e - m a d e
隣の 者 見ろ, 朝から 晚まで

m o c i c u d e , a . j a s i t e k a N m o c i h o s i t e , e r u N D a -
餅を ついて あのように して 寒餅 乾して, いる貴様

o e d e トナルトコロ)

n e o e d e m o c i k o h i t o c e k w a s j e r e n e - d e n a n d a q t e ,
に おいては 餅コ 一つ 食わせられないで なんだってえ,

so· eq ta wage-da.
そう 言った わけだ。

s+ta-ba, e· e· asama-ni zuqpari cude kwasjeru.
そしたら、ええええ 朝に いっぽい ついて 食わせる。

sjoguben i kaqte ke, fudeko-do. baba-ne sjø-
食紅 買って こい、筆ッコと。婆に 食

gubeN-do fude eqpo kawasje-da wage-da. so+te
紅と 筆 一本と 買わせた わけだ。そし

te, kondo togasi-te kondo a· jo· futobange-
て、こんど (食紅を)触かして、こんど アア ヨオ 一晩げ

no uci-ni kondo hos+teaqta kondo N·na sjogu-
のうちに こんど 乾してあった こんど みんな 食

benko cuge-de jaqta wage-da, uN, uN, sono
紅コ つけて やった わけだ。うん うん、その

tonari-no taera-no <R uN>-sjæ moçiqko-sa.
となりの 平の <うん> 餅ッコに

na·Nto asama-ni ogitaba-sjæ mamaande-sjæ ci-
なあんと 朝また 起きたら さながら 血

c+damidæ-ni naqteru wage-da, agagu naqte-na
が付いたみたいに なってる わけだ、赤く なってなあ

<R honda.> na·Nto ore-no moçis-sa osorosine
そうだ。 なあんと オレの 餅に おそろしい

mono cude daqte mini egeba N·na maqka-ni naq-
もの ついてだって 見に 行くと、みんな 真赤に なっ

teru wage-da. nanno tonan-no karapo jami-sa
てる わけだ。 何の、隣の カラボヤミに (怠け者)

das+te jareqte wage-de nas+te kwaeru mon-
呉れて やれって わけで、 なんで 食われる もの

dqte tonari-no karate jami-sa moqte egeqte,
かとて 隣の 怠け者に 持って 行って

n~nto eqinici-ni nando-mo cuda moçis nanda-ga,
なあんと 一日に 何度も ついた 餅 なのだが、

futari-mo sannin-mo si te ceda mo c̄, derogto
二人も 三人も して ついた 餅, デロリと

mora qte hitofuju agi-sita-dona. (笑)
貰って 一冬 (食って) 厲き廻したとさ。

③ 山さ行つてマギきり

N sore gara kondosjæ ma. s̄y e zir o ko si te da qte
それから こんど 繁次郎 こうしていくても

jaz jagane tegane jadodien e. hito jadowa sje de.
だめだから 鹿って いい 人 鹿わせて

ja qta do. si taba kondo, s̄y e zir o, cjo magi-
やったと。 したら こんど 繁次郎, 今日 薪切

kiri - da - dæ. ja ma - sa eq te magi - hora, jogama - wa
りだよ 山へ 行って 薪 ほら, 四釜は

taganæ na nte gane, ki qte ko eq te. jo - si - do (o) mo -
焚かねばならぬから 切って来いってえ。 よしと 思

te eta wage - s jæ. si ta - ba kondo, fut a - gama
って いた わけよ。 したら, こんど, 二釜

ki qte kondosjæ o fur i - ke si - te nededa wage - da,
切って こんど 大きな顔して 寝ていた わけだ,

jam a - na ga - de - na. so gode kondo, eq te midaba - s jæ
山中でな。 そこで, こんど, 行って みたら,

fut a gama - jori ki qte ne wage - da. s̄y e zir o,
二釜しか 切って ない わけだ。 繁次郎?

kore sjeba nanda qte fut a - gama ki qte sjeba
これ, すると, 何だって 二釜 切って

ned e, jo - gama kiru h̄zuni si te - s jæ edanega -
寝で! 四釜 切る 答に して いたではないか

do, nani sa ber uq tega, ko qc̄ - no kāde - no ho - sa
と。 なに しゃべるのか。 こっちの 蔭の 方へ

ki te mi re - dæ. ko qc̄ - no ho - no kata - kogo c̄ - sjeba
来て みろ。 こっちの 方の 片木口, すると,

ki qta-a nda qte na, koqc+ mide futa-gama areba,
切ったのだよ なあ、 こっち みて 二釜 あれば,
koqc+ no ho. mide-mo futa-gama areba, jo-gama-
こっちの 方 みても 二釜 あれば 四釜
daaqtado. sjeba nda ka nzjo-dadomona, kada-
なのだと。 そういえばなるほど そういう勘定だものなあ。 片
kogoc+ dare ki qta-a nda, ore ki qta-a nda, sj-
木口 誰 切ったのだ、 オレが 切ったのだ、 する
ba sore jogama-ni naqte simaqteru wage da.
と、 それ 四釜に なって しまってる わけだ。

④ わかじえ
若勢ぶり

sore-gara kondo s̄y ezi ro-dogo kondo wagazje-
それから こんど 繁次郎を 今度 <若い衆>
ni tanomo-ni eq ta wage-da. eg u to qte ema
に 頼みに 行った わけだ。 よく 取って 今
naNbo naNbo-ni tanomaenegaqtaba e. e-qte, sita-
どれほどに 頼まれないかといったら、 いい、 いいって、 そした
ba-sjæ ore-sjæ naN-demo s̄y godo-daba surusi-
ら オレは 何でも 仕事は するし,
sjæ wage-da.
わけだ。
sitaba kondo-sjæ oenojonda mono-sjæ naNdemo-
したら、 こんど オレのような 者、 何でも
sjæ kwannon-sama-no hidakes-sjæ ore-dogo jast-
觀音様の 日は オレを 休
masjede kereqte. kwannon-samaqtaqte ecinici-
ませて くれってえ。 觀音様といっても 一日
bari nanne-do omote, ae ae edæ eq takodone.
だけにしか ならないと 思って アエ アエ いいよ と言ったことよ。
s̄y ezi ro nanisruqteba cjo-wa ecibaN-no kwa-
繁次郎 なにするっていうと、 今日は 一番の 観

NnoN-sama-daqte wage-dana. asita-ni nareba
音様だという わけだな。 明日に なると

mada-sjæ s̄yезiro nanisurugæqteba cjo-wa
また 繁次郎 なにするかといふと 今日は

nibaN-no kwannoN-sama-da, asaqte-ni nareba
二番の 鶴音様だ、 明後日に なると

cjo saNbanno kwannoN-sama-daqte wage-dan.
今日 三番の 鶴音様だといふ わけだ。

kondo-sjæ naNto tæztr sanban aru wage-dan,
こんど なあんと 絶えず 三番 ある わけだ、

kwannoN-sama-na. sjeba cugini-sjæ sanzju-
鶴音様が。 すると、 次に 三十

nic̄-jori ore jasNda oboe nedo. ado-no miq-
日より オレ 休んだ 覚えが ないと。 あの 三

ka sjeba nanto site kureruandado. soede
日、 すると、 なんと して くれるのだと。 それで

kondo ado-no miqka-buri-mo mada-sjæ ton-neba
こんど あの 三日ぶんも また 取らねば

naranæandadona. jaqpa sanzjusaNbanno kanNoN-
ならないのだとよ。 やっぱり 三十三番の 観音

sama. soede kondo ojagada-mo naNm mo mageda-do.
様 それで こんど 親方も 何もみな 負けたと。

ec̄nen-zju nesje-de kwasje-de so site miqkad-
一年中 寝せて 食わせて そして 三日づ

zue-ni savari aru wage-dan. soede s̄yезiro-ni
つに 下がり ある わけだ。 それで 繁次郎に

kate tote mo awanedona.
かかって とっても だれもだめだと。

【15】昔　　話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市勝本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	勝本	だけ	
U	吉田運蔵	男	〃16年生	〃	〃	（聞き手）	
S	吉田家主婦	女	40才くらい		〃	（〃）	
K	菊地正信	男		高校教諭			

① 松かさ三升で炊事 —— 嫁の資格試験 ——

解説：マツカサ(松巻)は方言で[madzukasa]マツフンクリだがここでは共通語のマツカサでみえる。ムガシはオナゴがヨケエ居たダメ。ナンダラ嫁デモ選ブコトガデキタではじまる。ここではその嫁の能力試験で、マツカサ三升を与えてゴハンを炊かせ、オツケ(お汁)をつくらせ、そしてユコ(湯)までわかさせようとするのである。三升くらいでマンマ オツケから湯コまでとは大変と一つづつ——最後までマツカサがあるようにと——くべてゆくのが中以下の頭脳の持主、マンマが煮えないうちにすでにマツカサがなくなってしまう。嫁入り資格十分と判定される上脳は果して如何なる方法を以て処置したか。

N mug as + ban as + k a d a r o . g a .
昔　　話　　語ろうか。

arū mug as + n e - da w a g e - s j æ . h i t o r i m u s g k o .
ある　昔に、　　という　　わけよ。　　ひとり息子が

j o m e m o r a u - n e - da w a g e s j a - n a . n a . n t o m o d o r d a b a
嫁を　　貰うことに、　　というわけよなあ。　　なあんと　　昔は

ēma - j o r i - s j æ o n ā g o j o g e . ē d a t a m e n i n a n d a r a i
今より　　女が　　たくさん　いた　ために　　どんな

j o m e - d e m o ē r a n - d e m o r a u - n i ē g a t a w a g e - d a .
(いい) 嫁でも　　遙んで　　もう{に　よかった}　　わけだ。

N de - s j æ o r e n o ē · s a k u r u j o m e - s j æ m a d z u k a s a
それで、　　俺の　　家へ　　来る　　嫁よ、　　まつかさ(松巻)

s a n z j o - n i m a m a - d o o d z u g e - d o j u k o - d o , s o .
三升で 飯と お汁と お湯と そう

t a g u - e n - d a - s j æ j o m e - d e n e b a m o r a w a - n e - d o .
たくような 嫁で なければ もらわないと,

s o e - d e k o n d o t a d e k a n b a n s a ð e - d a w a g e - d a .
それで 今度 立看板を 下げた わけだ。

s o . j u - k o q t e , k o n d a - s j æ , o r e - m i d æ n a m o n o z u g i - d a
そういうことで, 今度, オレ(俺)みたいな 物好きな

m o n d e a q t a - b e - s j a , s o r e - d a b a o r e e g u q t e k j t a
もので あったんだろう, それなら オレ 行くといって 来た

w a g e - d a , m a n z u - s j æ k a n b a n - n i j o q t e k j t a - d o .
わけだ。 ます 看板に よって 来たと(いう)。

s i t t a r a - s j æ , s i k e n - s i - t e m i r e q t e , m a d z u k a s a
それなら 試験して みろっというわけで 松かさを

s a n z j o , ð a z u g e - d e - s j æ m a n m a t a g a - s j e - d e o d z u g e
三升 頂けて(与えて), 飯を 炊かせて お汁を

n i r a - s j e - d e s o - s i - t e - s j æ j u q k o - m o w a g a s u - a n d a
煮させて そうして お湯も わかすという

w a g e - d a - n a . s o r e d e g i r e - b a - s j æ , m a n d z u j o - m e -
わけだな。 それが できれば, まず 嫁

q k o - n i m o r a u d e k o d o n i n a q t a w a g e - d a . s o e d e
に もらうという ことに なった わけだ。 それで

k o n d o m a t a - g a - s j e - d a - b a , m a n d z u s a e s j o - n i
今度 まあ たかせたら, ます 最初に

f u t a q c t m i q c t f u t a q c t m i q c q t e m a n d z u - s j æ
二つ 三つ 二つ 三つといって ます

k u b e - d e j a q - t a - b a - s j æ s a n z j o - n o j a d z u - n i - s j æ
くべて やつたら 三升の もの(松がさ)で

m a n m a j a q t o g a - j o r i n i d a d a - n e w a g e - d a . s o e n d e
飯が やっとがより(やっとしか) 煮立たない わけだ。 それで

m a n d z u s o r e r a g u d a e - d e a q t a - d o - g a e . n d e , n i -
ます それ 落第で あったとよ。 それで 二

baNme-ni-sjæ kit a hito-sjæ ore sitar asjæ
番目に 来た 人よ オレが それなら

jaqte miru qte mada kit a hito eda wage-da.
やって みようといつて 又 来た 人 い(居)た わけだ。

sitadomo mada madzukasa sanzjo azuge-de-sjæ
だが、 また 松かさを 三升 預けて

sono manma taga-sje-de mida wage-sjæ. sogode
その 飯を たかせて みた わけよ。 そこで

sono hito qca-dzucu-sjæ kubeda-wage-da. hito qca-
その 一つづつ くべたわけだ。 一つ

dzucu kubeda-kondosjæ ore ha go-kagu
づつ くべたら 今度 オレは もう 合格

smon-dado omoqte-sjæ hito qca-dzucu kubeda
するもんだと 思って 一つづつ くべた

wage-da. sogode sore-mo madasjæ manma nida-
わけだ。 そこで それも また 飯が 煮立

da-ne-de ha ne-site simaqta wage-sjæ. na nato
たないで (松かさを)なくして しまった わけよ。 なあんと

sitaqte jaz jagane, mada sore-mo ragudae-da
しても 駄目だ、 また それも 落第という

wage-da. sore-gara-sjæ e-kagenda hanegari
わけだ。 それから いい加減な 跳ね返り(おてんば)娘が

mada kida wage-sjæ, ore sitara jaqte miruq-
また 来た わけよ。 オレ、 それなら やって みようと

te sitara mada madzukasa sanzjo andzuge-de-
いつて そしたら また 松かさを 三升 預け

sjæ siken sasjeda wage-da. nanno-kodone,
て 試験をさせた わけだ。 なんのことない

eginari boqkori sanzjo kubeda-sorenii hin
いきなり ボッコリと 三升 くべて、 それに 火を

cukeeda wage-da. do-doo-donidaqte simata
つけた わけだ。 ドオードと 煮立って しまった

wagesjæ, sanzjo-no ma., hitokubede. kondo
 わけよ, その三升の 松かさが, その一くべで。 今度
 n̄iba nme-ni kono kiwa-sa ko·sæ hanedeqtajad zu
 二番目に この 際へ このように 跳ねていったやつ
 (手真似) (手真似)
 konda adzubede, sositaba-sjæ odzugeqko ni-
 (松かさ)をこんど 集めて, そしたら お汁が 煮
 daqta wage-da. odzugeqko nidaq-ta-ba jaqto
 立った わけだ。 お汁が 煮立ったら ヤッ(威勢よく)
 oros̄te, sono ogiqko-sa-sjæ cjaqamako cjiq-
 おろして, その オキ(燠)へ 茶釜を おしつ
 cakeda wage-da. sore-de manzjogu sita-dona.
 けた わけだ。 それで 満足 したということだ。
 Nte, anmari ke-cijaru-mo mada e. kodo de
 それで, あんまり ケチ(吝嗇)するのも また いい ことでは
 ne-an-da wageda. sogosjæ adama-no mondae-
 ないという わけだ。 そこはよ 頭の 問題
 de-na., soe-de, sono hito mandzu sogono
 でな。 それで, その 人(娘) まず その
 e-sa jomeko-ni naqte osamaqtado-jona han-
 家へ 嫌に なって おさまったという 話
 si-da. sore-de toqpiNparari.....
 だ de... それで トッピンパラリ.....
 で.....

② <やぐわん>と<めくされ>それに<じらみたがり>の話

解説: ちょっと上品めいた話ではないが、昔話の世界なら<めくされ><しらみたがり>などありふれたことでどこにもみられたし、自分たちにもあったもの。但し<やぐわん>だけは古今東西を通じて遍在する。この三人がナンボカユイ(痒)タッテ カガネッコ、ナンボ 涙デタタテコシネッコ をしようと約束する。コシネコはコスラネコである。ヤグワンとシラミタガリはかゆくて死ぬほど、めくされはメクソと涙でこれもそれほど、さて三人この難關をいかに切りぬけたかというのがこの昔話のネライ。

M a r u m u g a s i - n e t o m o d a c i q k o s a n n i n a s u n d a
ある 昔に 友達 三人 遊んだ

w a g e - s j æ . s o n o d o g i - s j æ f u t o r i j a g w a n - d e ,
わけよ。 その 時 ひとりは ヤガン(禿頭)で,
(葉罐頭)

f u t o r i s i r a m i - t a g a r i - d e , f u t o r i m e k u s a r e - d e
ひとりは シラミタガリで, ひとりは メクサレで
(虱集) (目腐)

a q t a - d o g a e s a n n i n - d z u c h a a s u n d e d a w a g e - d a .
あったとよ。 三人いっしょに 遊んでいた わけだ。

s o r e g a r a k o n d o - s j æ f u t a r i (言いなおして) s a n n i n
それがら 今度 二人 三人

a s u n - d e - s j æ e q s j o k e m e k a e d o - n a g a a r u e t e - d a b a ,
遊んで 一所懸命に 街道なかを 歩いていたら,

j a j a c j o - s j æ n a n b o k æ t a q t e - k a g a n e q k o j a r o . -
やあ やあ 今日よ どんなに カユクテモカガネエヅコ やろ
(痒)

g a (q t e) . a e a e , s i t a r a - s j æ o m æ m a d a n a n b o
うか(って)。 うん、うん そしたら お前 また どんなに

m a n a g u - s a n a m i d a d e - d e k i t a b a t a t e k o s i n e q k o
マナコ(眼)に 泪が 出て 来たとて コスラネエヅコ

j a r u g a (q t e) . s j e - b a o r e - m o j a g w a n k a g a n e q t e
やるが(って)。 そしたら オレも ヤグワン カガネエって

s a n n i n - s i t e k i m e - d a w a g e - d a . s o k o - d e k o n d o
三人で(このように) きめた わけだ。 そこで 今度

n a N m o - k a N m o s i r a m i - t a g a r i k æ k u - t e s i n u - e N d a
無精に シラミタガリは 痒くて 死ぬような

w a g e - s j æ . a N m a r i a g i r e d e k o N d a - s j æ k o - e (言い
わけよ。 あまりの ことに { あきれて } どうしようもなくて } 今度 (ちょうど)

なおして) e : a N b a e - n o k a w a q k o - e N d a d o g o - s a e q t a
いいや ぐあいの 川のようないへ ところへ 行った

d o g i k a m o e q p a t o N - d e k i - t a w a g e - d a . o j a !
とき 鴨 一羽 飛んーで 来た わけだ。 オヤ

o j a ! o j a ! o j a ! a q k o - s a k a m o e q p a t o N - d e
オヤ オヤ オヤ, あそこへ 鴨 一羽 飛んで

ki-ta-daja. ano kamō, gozjō gozjō gozjō go-
來たよ。あの鴨、ゴジョ ゴジョ ゴジョ ゴ
zjō gozjō gozjōqte, naNmo-kaNmo gozjō gozjō
ジョ ゴジョ ゴジョって、ただもう ゴジョ ゴジョ
gozjō qte hīgsi-de kæde s̄imaqta wage-da.
ゴジョって 必死で かいて しまった わけだ。
soede sirami-tagari kæ dogo minna kae-de
それで シラミタガリは 痒い ところを すっかり 挿いて
s̄imaqta wage-sjæ. sogode kondosjæ jagwan da
しまった わけよ。そこで 今度 ヤグワン の
wage-sjæ. sitara, ore-mo jaroga-dø omote,
わけよ。そしたら オレも やろうかと 思って,
俺
konda-sono dogi kosite gwanzuri cukame-ba
こんど、その時 こうして グワンヅリ つかめば
(手真似)
egaqtadeni, adama gwanzuri cukame-ba egaqtæ
いかつたのに、頭を グワンヅリと つかめば いかつた
deniqte ko: jaqta wage-da. naNbogærí-mo
のにといって こう やった わけだ。何遍も
(手真似)
so: jaqtara sore-mo mada jagwan kandeesæ
そう やったら、それも また ヤグワンを 挿いて
manzjogu-sjta wage-da. soregara mekusare
満足した わけだ。それがら メクサレは、
kondasjæ nanto strw, ore-mo mage-de erare-
こんど、何と する、オレも 負けては いられ
næ-dø omote konda kanqeda wage-da. sono
ないと 思って こんど 考えた わけだ。その
dogi teqpo-demo are-ba egaqtadomo-na, doqto
とき 鉄砲でも あれば よかったどもなあ, ドッと
doqto udeba egaqtani, R. 低声で, managu kosarw-
ドッと 打では よかったのに それでマナグを こする
ac> sono udz+i-ni mekus o deroqto odos+i-te,
のだ > そのうちに 目糞 デロッと(すっかり) おとして

(笑大きくこのところ不分明) s o r e d e s a n n i n - n a g a r a k o n d o -
 (しまったわけだ)。それで 三人ながら (全部) こんど
 s j æ k æ d o g o - m o k æ - d a - s i, s u q k a r i d e g i - d e - s j æ
 痒い ところも 搔いたし, すっかり やってしまって
 m a n z j o g u s i t a d o g a e.
 満足 したとよ。

③ 狐とむじなとを化かした話

(1967年9月3日 臨地検討)

解説: 詳しきいえば<博労が狐とむじなとをうまくばかして大もうけした話>である。よく流布されている話で、話そのものは別に珍しいものではない。カラダを撫でて、コゴノ アダリ アンマリ 肉 タラネデアッテ 撫デレバ $\int \infty$ マダ コンダ 好エ アンバエニ ナルワゲダなど なかなか話者の巧みさを物語っている。

N adz \dot{t} q c ja damaq tere - jo.
 爺チャ だまってれよ。

U o e.
 オエ, (うん)。

N kic \dot{u} ne - do mu z \dot{u} na - do - s j æ n i n g e n - ni d a m a g a s a -
 狐と むじなと 人間に だまさ
 red a - do. kic \dot{u} ne - do mu z \dot{u} na - do, a r e - s j æ , a r u
 れたと。 狐と むじなと あれ, ある
 baguro jama - s a - s j æ ko e n e w a g e d e k i d a b a,
 博労 山へ こういうよう(な)に わけで 聞いたら
 kic \dot{u} ne - do mu z \dot{u} na - do k o n d o h a n a s t i s i t e s o: -
 狐と むじなと こんど 話 して 相
 d a n s i t e - d a w a g e - d a. n a n t o m u s i . o m æ a s i t a
 談 していた わけだ。 なんと ムジナよ, お前 明日
 \sim u m a - n i n a r e d e j a. o r e d o g o s o g o - n o s o e s a g a -
 馬に なれよ。 オレ どこ そこの それ 酒
 ja - n i n a n b o t a g æ - t e m o e: \sim u m a - d a b a k a u d e
 屋に どれほど 高くても よい 馬なら 買うという

hanasi dan tegane, temæn-dogo uqte-sjæ ore
話だから, お前(のとこ)を 売って オレ

zjeni mo-gede kïte futarisite wagerajqte
錢 儲けて 来て 二人して 分けらうよと

soda n-siteda wageda. sïtaba kondasjæ kore-
相談していた わけだ。 したら こんどは これ

hæ e-kodo kidado asama-ni naN nandogi keba
は よいこと 聞いたと, 朝に 何時に 来いば

e, sïtaba-sjæ kiçane-dosa ju-nisæ asama-ne
いい (というと) したら 狐に 言うに 朝まに

hajo-ne hajægu ke-jaqte ko. eqta wage-da.
早うに 早く 来いよって こう 言った わけだ。

jo-si-do omoqte kondosjæ baguro, kondoo c#di-
よしと 思って こんど 博労 こんど 次

no asama-ni kondosjæ hajoogi-ni hajægu
の 朝まに こんど 早起きに 早く

maganakte gozja kite fukagasa kabute kon-
身支度をして 莫薩を 着て 深笠を 冠って こん

da-sjæ degagede eqta wage-da.
ど 出掛けで 行った わけだ。

mus+: edagæ, o-q haeneganaja. ja. hajægu
ムーよ。 いたかね。 おー、早いねか。 うん, 早く

eganeba nane, abejasitara-sjæ mus+. bageda
行かなければ ならない, さあ行こうや。 したら むじなは 化けた

wage-da. naNto moqto jogu bageredæ. kogo-no
わけだ。 なんと もっと よく 化けろよ。 ここ

adarisanmari nigutaranedæqte nadereeba-sjæ
あたり あんまり 肉が 足らないよといって 撫でれば

mada konda e. anbæ-ni narw wage-da.
また こんどは いい 具合に なる わけだ。

sa. konda siqkari siqkari nandede konda-sjæ,
さあ, こんどは しっかり しっかり 撫でて こんど

na·N to konda e· aNbæ-ni naqta-dæ ego·dæ.
なんと こんど いい 具合に なったよ 行こうよ。

temodo-ne sagaja-sa eqte kas+ uNte kuqtara
酒屋へ 行って 糟を たくさん 食ったら

nigede ke·joqte. o· o·qte. sosite keba zjeni
逃げて 来いよってえ。 おー おーってえ。 そして 来いば 錢

wageranaqte ju·dajac+ aN Nda Nda zjeni wage-
分けようよなあって 言ったのに対して うんうん そうだそうだ 錢 分け

ruqte, eqta wageda.
ると 言った わけだ。

sitaba kondo-sjæ ma e· aNbæni bageda. sa·
そしたら こんど まあ いい あんぱいに 化けた。 さあ,

ore noqte egudæqte ke-qc+ buqtadæte, kondo-
オレ 乗って 行くよって お尻を ぶったたいて こんど

sjæ zæqto funagos+i-no sagajamidæna (dogo-sa)
ずっと 船越の 酒屋みたいな (所へ)

noqte eqta wage-sjæ. na·N to mireba miruhodo-
乗って 行った わけよ。 なあんと 見れば 見るほど

sjæ e·fæ umada wage-dana. kondo-sjæ sono
いい 馬だ わけだな。 こんど, その

koro-no kaneme-dara-sjæ naNbogane uqtada-ga
頃の 金目なら どれくらいに 売ったのか

wagarane-domo, o·gada e· ne-ni uqta wage-sjæ.
分らないけれど, だいたい よい 値に 売った わけさ。

sosite konda e-sa kitte sirane furisite, sono
そして こんどは 家へ 来て 知らない フリして, その

um a eqpig i tanda mo·ge-de-gae sono baguro-sjæ
馬 一四 ただ 儲けてねえ, その 博労

jorokon deda wage-da. sokode kondo, sono na-
喜んでいた わけだ。 そこで こんど, その 何

nisi te, mu+zna kondo-sjæ e· kagen kas+ kute
して, むじな こんど いい かけんに 糟 食って

~untagu naqta-dō. majaga-ra, koede, n̄iøede
 いやに なったと。 馬小屋から, 越えて, 逃げて
 kita wage-da. kisi. kisi. zjeN wagero-dægte
 来た わけだ。 キーよ, キーよ。 錢 分けろうよって
 kita. kono cikisjo Nøa ore-dosa uso m̄øejā-
 来た。 この 畜生! 貴様 オレに ウソ(嘘)つきや
 dægte futo kesa mugæne eqtaba, soete hogo-sa
 がって, ひとが けさ 迎えに 行ったら そして 不分明
 (自分をいう)
 kagurede enede ema sūduni dʒeN nosimo jogu
 隠れて いないで, 今 すぐに 錢 ()
 degi-da-dote futari site kondo keN-kwa ama qta-
) 二人 で こんど ケンカを はじめた
 dona. naNmo kaNmo, siræ deba kuræqte kumi uci
 と。 なにも かもすべて, 白いと いえば 黒いと言って, 組打ちを
 jaqta wa-g e-d a. sitaba sono baguro konda
 やった わけだ。 そしたら その 博労 こんどは
 zjeN unto mo·gede simate kondo kiçtnedo
 錢 うんと 儲けて しまって こんど 狐と
 mužina (未完のままテープ切れにて無録音)
 むじな

④ 無実の罪に泣く如来さま

解説：和尚さんがこっそりかくして賞味していた<烏賊の塩辛>小僧が発見留守中 deroqto と食ってその罪を、あろうことか、如来様に塗りつけたという話。つまり塩辛を御堂の如来さんに塗りたくっておいたのである。さては和尚に打たれて如来さん<食わん><食わん><それ見る小僧クワンではないか>小僧なにくそとこんどは如来さんをそっくり釜へ、ついに如来<クタクタ クタ><それ御覽じろ和尚さん云々>となる。

N (mukas̄-no oqsan m̄aNçt ma-sjæ), namakusamon o
 (昔の 和尚さん まず まあ), 生臭物
 kueba-sjæ namakusa-bo·zæqte ewar erugte-sjæ
 食えば 生臭坊頭と 言われるといつて,

k o b o c j a - n i k w a s e n e d e o q s a N - b a r i k u q t a m o N d a
小坊頭に 食わせないで 和尚さんばかり 食って いた

w a g e - d a , m u g a s i - n e - n a . s o e k o N d o - s j æ e g a - n o -
わけだ, 昔にな。 それ こんど, 烏賊の
s j o g a r a k a m e - s a k a g u s i t e s o s i t e - s j æ s o g t e
塩辛を 薤に 隠して, そしてよ, そして
z i b u N - d e k o N d o o g j o - n i d e h a t a w a g e - d a . s i t a
自分で こんど お経に 外出した わけだ。 そうした
o r i - n i k o N d o k o b o . j e - n e e d e s o n o s a d a s i - t e
折に, こんど 小坊が 家に いで, その, 探して
a q t e s o n o e g a - n o - s j o g a r a k a m e - n i f u t o ç u d e -
歩いて, その 烏賊の塩辛を 薤に ひとつ デ
r o q t o k u t e s i m a t a w a g e - d a . s o e d e k o N d o s o n o
ロリと 食ってしまった わけだ。 それで, こんど その
o q s a N k i j t e s j æ s o n o e g a - n o - s j o g a r a k u d o o m o t e
和尚さん (帰って) 来て その 烏賊の塩辛を 食おうと 思って
m i d a b a n e w a g e - d a , n a m o . s o e g a r a s o n o o q s a N
見たら, ない わけだ, すっかり。 それから その 和尚さん
j u · n i , k o z o . k o n o e g a - n o - s j o g a r a d a r e k u q t a -
言うには, 「小僧! この 烏賊の塩辛, だれが 食った」
t e b a - s j æ k u q t a k u q t a n o - g o r i - s j æ n j o r æ s a N - s a
と言ったら, (食った) 食った のこりを 如来さんへ
d e r o q t o n o g t e o e d a w a g e - d a . s o g o d e , n j o r æ s a N
デロリと 塗って おいた わけだ。 そこで, 「如来さんが
k u q t a e N t a q t e s o . e q t a w a g e - d a . n j o r æ s a N - s j e -
食ったようだ」と そう 言った わけだ。 「如来さんが それな
b a s j o g a r a k u q t e j u . k o d o a r u g a . u s o - d a r a
ら, 塩辛を 食って いう こと あるか? うそなら
(うそだと思うなら)
m i d e k e r e , o s j o s a N . n j o r æ s a N m a m a n d e k u g i c j u -
「みてくれ 和尚さん」 (みたら) 如来さん すっかり 口中
s j æ s j o g a r a n o d a g u t e e d a - d o . u s o - d a r a m i n i
塩辛を 塗りたくって いたと。 うそなら 見に

ande kereqte, eqte midaba na·ruhodo njoræsan-
一緒に来てくれっていでので 行って みたら なるほど 如来さん

sa maroqkiri sjogara nodaguteda wageda.
へ すっかり 塩辛を 塗りたくっていた わけだ。

soede kondō njoræsan-sjæ hontonimo-sjæ kuqtat-
それで こんど 如来さんが ほんとに (塩辛を)食つ

ga kwaneqte kondō-sjæ kōnbo-do oqsaN-dō
たか 食わないかといって こんど 小坊と 和尚さんと,

kondō kēnkwa-ni naqta wage-da. soede kondō
こんど, ケンカに なった わけだ。それで, こんど,

masagarri moqte-sjæ njoræsan-dogo kondō tada-
マサカリを 持って 如来さんを こんど 叫い
da-do. kondāni-sjæ kuqte kuçis-a çuke-de ede
たと。 このように 食って 口へ つけて いて
nasite-sjæ kwaneqte sono Nna kodo arumon-dado
何で 食わない そんなこと あるものかと

mote tadadaba-sjæ njoræsan kwan kwaniqte nada
思って 叫いたら 如来さん くわん くわんと

naqta wage-da. sono njoræsan masagarimoqte
泣いた わけだ。 その 如来さん マサカリで
(鳴いた)

tadadaba kwan kwaniqte, so·ra kwaneqte juqta
叫いたら クワン クワンと, そーら 食わんって 言った,

hora, kōnzo· Nja kuqtaacu-ni maçigae neqte.
ほら 小僧 貴様 食ったのに ま違ひ ないってえ。

josi, sitara-sjæ dogo-mademo so· jaqte kuçis-
よし, それなら どこまでも そう して 口

ocinegoqtaba njoraesaN-dogo nide simauqte.
落ちないことなら 如来さんを 煮て しまうってえ。

kama-sa ogida kama-sa kondō-sjæ hi tade,
釜へ 大きな 釜へ こんど 火 焚いて

njoraesaN sjede nida wage-da. nidate kita-ba
如来さんを 入れて 煮た わけだ。 煮立って 来たら

k u t a k u t a k u t a k u t a k u t a k u t a k u t a q t e n a d a
 クタ クタ クタ クタ クタ クタ クタって 鳴った
 w a g e - d a . s o e d e , n j o r æ s a N - s j æ o s j o s a N k o r e
 わけだ。 それで、 如来さん, 和尚さん これ
 m i r e - d o . k o n d o k u c h i o c h i - d a g a - n a , k u t a k u t a
 みろと。 こんど 口 落ちたかな, 食夕 食夕
 k u t a k u t a q t e j u - d o . s o . j u . w a g e d e k o n d o
 食夕 食夕って 言うぞ。 そう いう わけで こんど
 k o b o - n i k a q t e o q s a N m a g e d a - d o .
 (子)坊に かかって 和尚さん 負けたと。
 小

⑤ ダンゴがドンになった話コ

解説：流布広い昔話。

ドンと小川を飛びこえたら忘れじと連呼し来りしダンゴがドンとなり、ついに夫婦ゲンクッとなる。馬鹿聾じれったさに嫁をゴワンと、嫁立腹ヒトノ アダマサ ダンゴミヂアコヅグテとなつて、ダンゴが馬鹿殿の頭にようやく登場となる。

N b a g a m u g o e d e a q t a w a g e - d a - n a .
 馬鹿聾が いた わけだ。
 s o g o d e , k o n d o - s j æ j o m e m o r a q t a b a , j o m e - n o
 そこで, こんど 嫁を もらったら 嫁の
 j e - s a - s j æ h i g a n d o g i k i t a b a , k o n d o a s i n e j a q -
 家へ, 彼岸の時が 来たら, こんど 遊びに やっ
 t a d o , s o n o m u g o - d o g o - n a .
 たと, その 聾をな。
 S s i t e m a f n e s j a b e n e g a q t a ?
 して, (この話)前に 話さなかつた?
 N s j a b e n e g a q t a - n a j a
 話さなかつたよな。
 U s j a b e r e s j a b e r e
 シャベレ シャベレ (小さく低い声)

N s o r e g a r a k o n d o s o g o - n o j e - n o m o n o k o n d a
それから こんど その 家の 者 こんど

d a n g o k w a s j e d a w a g e d a , h i g a n d a t a m e n i - n a . s a ,
団子を 食わせた わけだ, 彼岸だのでな。 さあ,

s o n o d a n g o n a n b o g a u m æ k u t e k u t a n d a g a k u q t a -
その 団子 どんなにか おいしく 食ったものか, 食っ

k o d o - m o n e , h a n a s i - m o s i r a n e e n d a d a n g o - d e
たことも ない, 話にも 聞いたことのないような 团子で

u m æ g æ q t a n - c j a k o n d o k o r e u m æ m o n d a n a k o r e
とてもうまかった こんど これ うまい もんだなあ これ

n a n t o j u m o n d a q t a b a - s j æ d a n g o - d a q t e . o m æ - n o
なんと いう もんだといったら 团子だってえ。 お前の

j e - s a e q t e o r e - n o d a r e - s o r e - n i k o s i r a s j e - d e
家へ 行って オレの だれそれに こしらえさせて
(嫁入った娘)

k u e q t e , s o e q t a w a g e - d a . k o n d a s o n o d a n g o ,
食いって そう 言った わけだ。 こんど その 团子,

w a s u r e t a g u n e - d o (o) m o t e - s j æ k o n d a - s j æ j e - s a
忘れたくは ないと 思って こんどは 家へ

k u r u - n a g a r a d a n g o d a n g o d a n g o d a n g o q t e , d o -
来ながら 团子 团子 团子 团子って ど

g o - m a d e m o - s j æ d a n g o d a n g o q t e k i t a w a g e - d a .
こまでも 团子 团子って 来た わけだ。

s j e g i e q p o a q t a w a g e - d a . n a n t o m a d a g æ n æ k u t e
小川 一本 あった わけだ。 なんと またがれなくて

d o n t o m a d a n d a w a g e - d a . s a . k o n d o d a n g o w a s u -
ドンと またいだ わけだ。 さあ, こんど 团子 忘

r e d e s i m a t e d o n d o n q t e k i t a w a g e - d a . s o k o d e
れて しまって ドン ドンって 来た わけだ。 そこで,

k o n d o - s j æ j e - s a k i t e - s j æ a b a d o n k o s j o - d e k w a -
こんど 家へ 来て アバドン こさえて 食
(主婦・自分の嫁)

s j e r e q t e s o e q t a w a g e - d a . t e d e n a n t o s j e b a
わせろって, そう 言った わけだ。 テデ なんと すれば
(主人・自分の夫)

dōte nanno koqtaqte. dōN kosjode kwasjere,
(いい)ドンってなんの こったってえ。 ドン こさえて 食わせろ。

emā-s jæ N̄a-no je-sa eqte dōN kuqte kitaba
今 お前の 家へ 行って ドン 食って 来たら

cito-baga-no umæ mondene, dōN kwasjre(qtara)
ちっとやそっとの うまい もんではない、 ドン 食わせろっていいたら

dōnqte ora s̄iranqte, nanto dōN s̄iranq kodo
ドン 知らないってえ、 なんと ドン 知らない こと

aru mondaga, je-sa eqte kosje-de morate keq-
ある ものかと、 家さ 行って こさえて もらって 食え

te eqta monda monosjæ s̄iranq-de kodo aru
って 言った もんだ もの、 知らないといふ こと ある

mondaga-to ju-monde kondō kenkwa-ni naqta
もんかと いうので、 こんど 嘘嘆に なった

wage-da. aba-dogo kondō sitadagani kondosjæ
わけだ。 アバを こんど したたかに こんど

tadade simata wage-da, adama-sa. a:q, edæ,
呻いて しまった わけだ、 頭を。 あっ、 いたい

edæ, kono tede-jo adama-sa danøo hodoo-no kōbu
いたい この テデよ 頭に 団子 ほどの 瘤

ce-da. aba, sono danøo-jae.
付いた。 アバ！ その 团子よ。

(6) 風雅を解するジッチャとバンバ

解説：バンバ 髪なく、ジッチャ 鼻なし。<似たもの夫婦>でなかなか円満。さすがにバンバは女性、髪なきあたりは掛け拭。ところがさる日のさる折手拭kappariと落ちる。ジッチャ感に堪えず一首、後二句 ヌイデミタレバ グルノカメ、カメはつるりと、はげ頭。バンバまた負けはならじと<花>に<鼻>をあしらい、ハナ ナキトキハ サビシカルラムと詠んだわけ。

N aru mugasi-ni dziqcja-do baba-do ede aqtadegae.
ある 昔に 爺と 婆 いて あったと。

so e-de kon da-sjæ baba-doo-ni kami o e de nega q-
それで こんど 婆さんには 髪が 生えて なかつ
ta wage-da. dz i q cja-doo-ni han-a nega q ta wage-
た わけだ。 爺さんには 鼻が なかつた わけ
dana. so e de fu f u-ni naq tedado, so e de kon da-
だな。 それで 夫婦に なっていたと。 それで こんど
sjæ baba jama-sa e q te kon da-sjæ nimo cq sjo q-
婆が 山へ 行って こんど 荷物 背負
te kit a wage-sjæ. na n to-sjæ e q sjo keme a q te
って 来た わけよ。 なんと 一所懸命 歩いて
kit a-ba kowakute kon da-sjæ do q sari or osite
来たら 疲れはてて ドサリと 降ろして
ko s i te-sjæ to q kurag a q te ko ja si ta-ba kami-no
こうして ひっくり返って このようにしたら 髪の
ne-sæ sono ten oø e q ko k q para-do to reda wage-
ない その 手拭 カッパラと 取れた わけ
da. sogode, dz i q cja ju ni-na na n to kon do-sjæ
だ。 そこで、 爺さん 言うに なんと こんど
na n to ga ju e ba e Ndaga ade ne wage-da mida
なんとが いえば いいのか 的が ない わけだ、 みた
kodo ne ga q ta nte, so re gara
こと なかったので、 それから
s ſ ba-ni kagedaru kage ton oø e q te
シバに かけたる 掛手拭
wage-dana
わけだな。

no e de midareba gur u-no kame q te
脱いで みたれば グルの カメって
ko e q ta wage-d a, si ta-ba, sono baba mada
こう いった わけだ。 そしたら、 その 婆 また
magedereba e domo, ore midænai mon-de
負けていれば いいけれど オレ みたいな もんで、

haru-wa hana, naçu-wa momizi agi-wa ki-
春は 花 夏は 紅葉 秋は 菊
mo fu

guqte wage-da
って わけだ。

hana nag i tog i-wa sabi s i karura n q te
花 無き 時は さびしかるらんって

wage-da. sore-de, doqci-mo doc i-d a wage da.
わけだ。それで、どちらも どっちだという わけだ。

sorede manzjogu si tena. iqsj o owaqtadona.
それで 満足 して 一生 終ったとよ。

topi (N parari)
トッピ (ンパラリ)

(7) 餅粉の整鼻術

解説：鼻の低いビッチャが餅粉を練っていやかだかに鼻を整え揚々と穿入りをする。鼻の高くなつた男ぶりをハナハナハナホドエーオドゴといつてゐるのがおもしろい。ハナハダ(甚)にハナ(鼻)とホド(程)とを懸けてゐるようである。床入りとなつて思わざる伏敵出現一晩勝負で豪華なハナハナハナホドヨイそれも見るかけもなく退治されたという話である。

N (hana-no) tagæ odogo-buri-no e. jaçt hosi-qte
(鼻の) 高い 男振りの いい 人が 欲しいとて、

kono fato egugooqtaba ha zibun-de go-kagu-da
この 人 行くなら ハア 自分で 合格で

aqt a. soede kondo jaç mançu t ad ef ûda-ni jote
あった。それで こんど やれ まず 立札に よって

mai rimasita qte mançu eqta n tegae. eqtaba
参りましたって まず 行ったとよ 行ったら

kondo-s jæ omæ-daba hana fugukute egenqte
こんど お前は 鼻 低くて よくないとて

mançu soe raguda e-sita wage-da.
まず それ 落第した わけだ。

sore-gara mada c̄hi-ni etqemo mada omœ-hana-
それがら また 次ぎに 行っても また お前の鼻

daba midagunakute egenesqte ju. wage-d a. mada
は 見ぐるしくて いけないと いう わけだ。 また

c̄hi-ni konda-sjæ naN-to sitara eNderoga-do
次ぎに こんどは なんと したら いいだろうかと

omote konda-sjæ e. mançu eqsjokenme ko hadade
思って こんど いい まず 所懸命 粉を はたいて

konda-sjæ komoci kosjede e.anbæ-ni site kon-
こんどは 粉餅 こしらえて よい具合に して こん

da hana-sa-sjæ ko-site kire-ni noqte-sjæ ko.-
どは 鼻へ こうして きれいに 塗って こう

site hanako kosjede eqta wage-d a. soSite-sjæ
して 鼻ッコ こさえて 行った わけだ そして

kaNbaN-ni joqte maerimas+dado. oqe maga-sjæ
看板に よって 参りましたと。 おい ます

konohito-dara go-kagu sanega-do omote cure-
この 人なら 合格 しないかと 思って 連れ

de eq-ta wage-d a. naN-to midadog o næ hanaha-
て 行った わけだ。 なんと 見たことも ない ハナハ
(鼻甚ダをおも

nahana hodo e. odogoda wage-d a. naNm o kam o
ナハナホド いい 男だ わけだ。 なんも かんも文句なしに
しろく言った?)

hana-daba kire-ni-sjæ naNto cjan-to sita uqte
鼻は きれいに なんと ちゃあんと した 願る

e. odogoda wage-d a. mama nde ãnda midæ-d a.
いい 男だ わけだ。 (それは)まるで 貴方 みたいな

hitoda qta nte gae. sore-de konda-sjæ kore-daba
人であったとよ。 それで こんど これなら

e-qte kondo hanahana-hodo e. mondagara kore-
いいって こんど ハナハナホド いい もんだから これ

ha e. odogoo-dado omote morata-wage-d a. soqde
ハア いい 男だと 思って 貰ったわけだ。 それで

kondo gosju.gi s̄ite eqtantegae. e taba e.Nda-
こんど 御祝儀 して 行ったとよ。 行ったら それは
tate konda-sjæ ned a wage-da. sogoo-no ene.
いいが こんどは 寝た わけだ。 その 家に
nanbogahodo nezumi eda mondandaga futo-baøe-
どれほどか 鼠が いた もんだやら (たつ)一晩
sjobu-de sono hana taøzi-s̄ite simaqtadona.
勝負で その 鼻を 退治して しまったとな。
jaqpari bicja-no modo-no bicqja-de aqtado.
やっぱり ピッチャの あとの ピッチャで あったと。
(鼻低)

(笑)

K modo-no bicqja
もとの ピッチャ

N modo-no bicqja-de aqta' wage-dana, hanahana-
もとの ピッチャで あった わけだな。 ハナハナ
hanahodo e. odogode aqta-domo, kondo nezumi-
ハナホド いい 男で あったけど、 こんど 鼠
ni kaqte kaztrarede
に かかって かじられて

⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ

解説：ゴギリは<後家入り>で後妻のことである。

後妻のママコイジメの話で、コメブグは前妻の子でアワブグは連れ子。途中で話者コメブグとアワブグとをとりちがえたところがある。子供のカクレンボに先妻の子をヌガの中に、わが子をコメの中にかくしたが、ヌカはかるくふわやかでコメブグは生き、コメだと安心して隠したアワブグは重さに息もできず冷たくなっておったでトッピンバラリとなる。

(注) 上記<ヌカ>は<糸殻>である。

N gogiri, gogiri so.-s̄jæ mugas+ne arutogoro-ne
(後家入) 後妻 そう 昔に あるところに
後添

gogiri moragta wage-sjæ. saesjo-no s+nda
後妻 貰った わけよ。 最初の 死んだ

futo-no ko-wa-sjæ komebugu-doj. onao-warasi
人の 子は 米ブクという 女子童

eda-dosa. konda-sjæ gogiri mada-sjæ awabugu-
いたとさ。 こんど 後妻 また 粟ブクと

do ju-ko cade jomen naqte kita wage-da. sore-
と いう子 連れて 嫁に なって 来た わけだ。 それ

de-sjæ naganaga kondo sono gogiri-sjæ sono
で なかなか こんど その 後妻よ。 その

komebu-dogo nigus+te sinue Nda wage-sjæ.
米ブクを 憎くて 死ぬような わけよ。
(死ぬほどにくいの意)

sjeba ano agi-ni naqtaba-sjæ kuri furou-ni
すると、あの 秋に なつたら 粟を 捨うのに

futari-dzæc+ jaqtaba-sjæ maNç# komebugu-fugu-
二人一緒に やつたら まず 米ブクの袋

ro-no keqcas-a-sjæ ana age-de, awabugo awabugu-
の 尻に 穴を あけて、 粟ブグ 粟ブグ

fuguro-daba-sjæ biqciri noqta Nda wage-da.
の袋は ピッチリ 縫ったわけだ。

soe-de-sjæ komebugu naNbo eqs jokeNme furoqta-
それで 米ブグ いくら 一生懸命 捨って

tate tamara-nae wage-da. sono sir+i-jact-sjæ
も たまらない わけだ。 その うじろの (袋)

komebugu-aqcja-daba tamaru wage-da. <K awa-
米ブグの のは たまる。 わけだ。 <K 薩
(粟ブグの誤)(袋) >

bugu. > sjeba-sjæ kondo naNtomo kaNtomo je-sa
ブグ。 すると こんど 何とも かんとも 家に
でなく<粟ブク>だと誤を正した

egeba kondo-sjæ sono o jagada-sa-sjæ sagi-no
行けば こんど その 親方へ 先(妻)の

ko-dogo maç# dohe-dado, naNto kuri-mo furoqte
子のことを まず ドヘだと なんと 粟も 捨って
<あほう>

kene-de, awabugu-daba-sjæ e q pæ furoqte kite
くることができず、粟ブクなら いっぱい 捨って 来て、

komebugu futoqca-mo furoqte kone-do. kondara
米ブグ 一つも 捨って 来ないと。 こんな

ko-ne eqte, maeniciq-i-no enimancut-ma-sjæ kus-a-
子に 言って 毎日の 様にまずまあ 鎖

ricugedeedaNtegaae. sogode, kondoo, aru dogi,
つけて(いじめて)いたと。 そこで こんど ある とき

ojagada jotas-i-ni eqte enedog-i-sæ kagurenbo
親方 用足しに 行って いない時 (言いなおして→)

jaru, kagurenbo jareqte kondoo juequge-da wa-
やる) 隠れんぼ やれってえ こんど 言い付けた わ

ge-da. sositara ore konda omagada-dogo kagu-
けだ。 そしたら オレ こんどは お前らを かく

s-i-te misjericqte. sosi-te kondoo oqako-dogo
して みせるってえ。 そして こんど 自分の子を

kondoo awabudo-go kondoo kome-no nagasa kagus-i-
こんど 粟ブクを こんど 米の 中へ かくし

ta wage-da. sore-gara kondoo komebugu-dogo
た。 わけだ。 それから こんど 米ブクを

noga-no nagasa kagus-i-teda wage-da. naNbo
穀の 中へ 隠していた わけだ。 いくら

daqte-sjæ sono micukeraqne wage-dana, nna
たっても その 見付けられない わけだなぁ、 みんな

kagurenbo jaqte saðas-i-ni aqtataate micukera-
隠れんぼ やって 探しに 歩いて 見付から

renæ wage-da. sitaba si-me-ni naqte kondoo-sjæ
ない わけだ。 したら、 しまいに なって こんど

nani-si-ro oqako kome-no nagasa haqte hede
何しろ 自分の子 米の 中に 入って 冷えて

si-maqte onbodæaqæ-de siNdeda wage-da. noga-
しまって 重たいので 死んでいた わけだ。 穀

no naga-sa haq ta ko kondo e g i d e d a w a g e - d a .
の 中に 入ってた 子 こんど 生きていた わけだ。

s o e , s o r e , 𠁻 a k a n z j o - d a b a m a n d z a m a d z a k o m e -
それ、 それ、 自分の 考えだと まず まず 米

no naga-sa s j e - d e o g e b a k o m e k u q t e e g i d e r u -
の 中へ 入れて おけば 米を 食って 生きている

d o o m o t e s o s i t e e d a w a g e - s j æ , n a . , k o m e k u q t e
と 思って そうし いた わけよ, なあ。 米を 食って

e g i d e r u - d o o m o q t e d a j a c h - 𠁻 a - s j æ s j e d e s i N - d e ,
生きていると 思っていたのが 冷えて 死んで,

n o g a - n a g a - n i e d a j a c h - w a - s j æ k a r o k e s i , n o g i s i ,
糲殻の中に いた のわ 軽いし, 溫いし,

s o r e d e e g i d e d a w a g e - d a . N d e , k o n z j o w a r i k o -
それで 生きていた わけだ。 それで, 根性の 悪い こ

d o s j e b a z i b u N n o k o z i b u N - d e k o r o s i t e s o s i --
とを すれば 自分の 子を 自分で 殺して そうし

t e e n e g u a N n e w a g e - s i , n a . , s o . j u . h a n a s i -
て いなくならねばならぬ わけよ, なあ。 そう いう 話

n a N d a .
なんだ。

非 壳 品

1968年3月

国立国語研究所 話ことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町